

久保田 梁山 編輯

上等紀事論說五百題 卷上

特33

97

館藏書台育教本日大

函架號

一	四	三
二	五	六
册	號	架

079161-001-7

特33-97

上等紀事論說五百題

久保田 梁山 / 著

上

M14.5

DAC-3097





之為禮事

潘從之曰

So. 1000

莫非文也而無
格之區別則不可
文也無行文之
緩急則不可以
乙巳

東
書
卷

自序

莫非文也。而無體格之區別。則不可謂之文也。無行文之緩急。則不可以爲文也。既有體格之區別。行文之緩急。則不可以無字句之長短矣。三者已備。而後始可謂之文也矣。然則黃

小之於文。不可以不示作法。而其書亦雜然而出矣。雖然文章之於體格。千變萬化。固不可以一二定示也。況於行文之緩急。字句之長短乎。是故其著書愈出。而其用愈不足矣。是所以其書雜然而出也歟。余曩者著作

文書若干卷。而黃小輩以爲猶未也。乃又著本編。以示體格。行文字句之變化。聊爲黃小懷老婆心而已。如大雅君子。又何取於此。

明治十四年春日

錄於塵遠草堂

窪田梁山



東書香

上紀事論說五百題上卷目次

上段 雜字門

中段 說論門

- ① 勸業博覽會說
- ② 地獄說
- ③ 聖人無夢說
- ④ 雲論
- ⑤ 情實說
- ⑥ 王侯相將寧有種說
- ⑦ 洗竹說
- ⑧ 石造家屋說
- ⑨ 脫刀說
- ⑩ 潮喻
- ⑪ 開化進步起於下民說
- ⑫ 擊劍說
- ⑬ 鐵齋說
- ⑭ 釣鯉說
- ⑮ 愉快說
- ⑯ 慣習說
- ⑰ 喫阿片說
- ⑱ 作文說
- ⑲ 物必有所稱說
- ⑳ 御馬說
- ㉑ 續燈說
- ㉒ 天鼓羅說
- ㉓ 影法師說
- ㉔ 世荀說
- ㉕ 世剛柔喻
- ㉖ 世油菜說



- 卅 御悍馬說
- 卅一 妻妾說
- 卅二 賢愚論

下段 遊記門

- 一 小向村觀梅記
- 二 鬼怒川捕鯉記
- 三 梅花書屋記
- 四 觀競馬記
- 五 獵鬼說
- 六 柳暗花明樓記
- 七 覽閱書籍院記
- 八 討論會記
- 九 近江八景圖記
- 十 百峰樓記
- 十一 拜覽延遠館官園記
- 十二 某夜觀鳩原演劇記
- 十三 聽鶯樓記
- 十四 古物展覽會記
- 十五 觀水雷火記
- 十六 有明樓記
- 十七 遊泉岳寺弟義士墓記
- 十八 品海拾貝記
- 十九 井棠書屋記
- 廿 縱覽第二勸業博覽會記

紀事門

- 一 紀日下部伊三次事
- 二 紀寬永三輔事
- 三 紀僧月性行狀
- 四 紀尾侯逸事
- 五 紀水藩正好分黨顛末
- 六 紀德川家康公逸事

七 賴三樹三郎傳

九 紀德川光國卿訓戒辭

十 紀佐久間象山建策

十一 紀織田右府察微

十二 紀赤穂義士復讐

十三 紀茶禿正齋事

十四 藤森恭助傳

十五 紀酒井忠利事

下卷目次

上段 雜字門

中段 說喻門

- 一 萬物皆化生說
- 二 奕喻
- 三 人世猶夢說
- 四 自由出天性說
- 五 醫業古今異貴賤說
- 六 釣魚說
- 七 開明基父際說
- 八 滋養不如授養說
- 九 鵲說
- 十 千金丹說
- 十一 將棊喻
- 十二 桃花源說
- 十三 衆怒不可犯說
- 十四 書生說
- 十五 妨害有輕重說
- 十六 幽靈說
- 十七 愛國說
- 十八 大同小異說

- ① 松柏論
- ② 貧賤驕人說
- ③ 貴重說
- ④ 改過說
- ⑤ 變化說
- ⑥ 僻所學說
- ⑦ 素脫師說
- ⑧ 外節說

下段 議論門

- ① 賞罰毀譽不足輕重豪傑論
- ② 公天下不如議院論
- ③ 農商不可軒輊論
- ④ 有一得有一失論
- ⑤ 井田直粥論
- ⑥ 苦痛不便者得幸福便利之基論
- ⑦ 鐵路不可不大開論
- ⑧ 熱心論
- ⑨ 教育論
- ⑩ 仁德帝論
- ⑪ 榮枯論
- ⑫ 國會論
- ⑬ 創業易守成難論
- ⑭ 以苦痛為苦痛無苦痛論
- ⑮ 松田直憲論
- ⑯ 彼利則此害論
- ⑰ 天災可追論
- ⑱ 人材論
- ⑲ 男女同教論
- ⑳ 復讎論
- ㉑ 論豐太閤
- ㉒ 今人勝古人論
- ㉓ 獨立論
- ㉔ 備不虞論
- ㉕ 博奕論

- ① 物產論
- ② 菅公為雷論
- ③ 政如張琴瑟論
- ④ 異端論
- ⑤ 語學論
- ⑥ 實際傍觀異情論
- ⑦ 真正學士不耻賤業論
- ⑧ 鳥居勝高論
- ⑨ 保護稅論

通計百二十八題二畢

凡例

- 一 本編ハ、小學上等ノ作文ニ便ナラ、ンガ為ニ編集セシニテ、紀事遊記論說ノ四項ニ分チ、其ノ内ニ又傳紀堂宇記譬喻人物論等ヲ雜ヘ、各自ノ作例ヲ掲グル者ハ作者見聞ノ廣カラ、ンヲ圖ル、
- 一 文ヲ作ルハ、時俗ニ適當スルヲ要ス、因テ題ヲ撰ブ、左ノ如シ、
- 一 各自ノ作例ニ、熟語ヲ附ス者ハ、聊カ作者思想ノ便益ヲ圖ルノミ、

明治十四年五月

編者識ス

雜字門

○今茲 ○今年 ○今歲
 ○今且 ○今朝 ○今曉
 ○今回 ○今般
 ○昨 ○昔
 ○過般 日

說諭門

勸業博覽會說
 勸業トハ何ゾ、人々ノ功業ヲ勸進スルナリ、是レ果シテ何ハ益ソヤ、一ハ以テ人智ノ開明ヲ致シ、一ハ以テ國家ノ富强ヲ致スナリ、之ニ名ズルニ博覽會ヲ以テスルハ何ゾ、曰ク是レ其ノ人智ノ開明ヲ致ス所以ナリ、夫

上紀事論說五百題卷之上

遊記門

○小向村觀梅記

東京 久保田梁山 著
 肥前 家里隆藏 校閱
 春三月某ノ日ニ、梅花ヲ小向村ニ觀ルハ、同窓ノ招キニ應ズルナリ、此地ヤ南ハ品海ニ接シテ、碧波天ニ際シ、一望千里ノ勢ニアリ、北西ハ山野ニ連ナリ、空山寂寞トシテ、人ヲ見ザルノ情アリ、而シテ一村処トシテ、樹ナラザルハナシ、樹トシテ花ナラザルハ

○昔時經
ノフ又ハコノアヒ
カナドニ用ニベシ
○同社
○同窓
○等
○等輩
以上トモチ又
ハ白門ノ人ヲ云
○同遊
○同伴
○同道
以上ハトモニ
ビレフニ用フベシ
○蹣跚

レ人ノ智ニ於ル見ル所
口博ラザレバ、エヲ求ム
ル深ラズ之ヲ見ル既ニ
博久之ヲ求ル既ニ深ケ
レバ其ノ功業ニ於ル必
ズ勸マザルヲ得ス、一人
ノ業既ニ進ミ推テ千萬
人ニ至レバ、國家ノ富強
ナラザルヲ得ント欲ス
ルモ得ス、是レ其ノ博ク
衆人ニ覽閱セシムル所

ナク、花トシテ香アラザルハナシ、紅ナル者
アリ、白ナル者アリ、是レ其ノ地タル古ヘ
謂フ所ノ羅浮天台ノ如キカト疑ハル食曰
ク美ナル哉梅ヤ、林氏カ暗香浮動ノ稱賞ア
ル當ルト云フベシト、甲ノ曰ク花ハ則チ美
ナリ、酒ナキヲ如何セント、是ニ於テカ酒ヲ
命ズレバ、酒アルヲ准ノ如シ、乙又曰ク酒ハ
則チ美ナリ、肴ナキヲ恨ムト、是ニ於テカ肴
ヲ呼ブ有ノ来ル抵ノ如シ、則チ相共ニ花ニ
對シテ白ヲ浮ベ肴ヲ啗ヒ、日ノ將ニ西溪ニ
没セントスルヲ知ズ、豈ニ人間ノ一大至樂

シテ行ク
○蹠々ト
シテ歩ス
○漫然ト
シテ酔歩
ス
以上酒酔
フテアリク
○散策
○散步
○散杖
○吟
行
以上ハハナク
トシテアリク
用ユ
○吟哦

以ンニ非ズヤ、因テ之ガ
説ヲ作ル、
熟語
禽獸草木ヨリ介虫ノ属
ニ至ルマデ一ノ備ハラ
ザルナシ
○礦山ノ方法
ヨリ、機械ノ運轉ニ至ル
マテ其ノ順序巧緻ヲ極
メザルナシ
○人智ヲ関
奈スルノ一ツ大器械ト
云フベシ
○政米ノ各洲

ト云ハザルベケンヤ、嗚呼此ノ地ノ梅花ニ
於ル墨上漢士ノ一遊セシヨリ、遂ニ其ノ名
ヲ都下ニ傳播スルヲ得テ、余カ草モ亦此ノ
樂ミヲ得ル者ハ、豈ニ奇ナランヤ、是ニ於テ
カ記ス、
熟語
皇居ヲ距ル纒ニ數里ニシテ
○郊外ノ一ツ
繁華場ト為ス
○水アリ以テ舟ヲ泛バベク
亭アリ以テ小憩スベシ
○櫻花ノ候ハ紅裙
路ニ滿シ
○夜香ト扇影ト東西ニ旁午
○落紅ノ風ニ飄ヘルハ三月ノ雪カト訝ナリ

○吟嘯以上公詩

○欄ニ

憑テ見ル

○檻ニ憑

テ望ム

簾ヲ捲テ

望ム

○窓

ヲ推テ見

○杖

ニ用ユ

ト雖氏之ニ過ル能ハズ
○開化ノ進歩是ニ於テ
一層ヲ加フト云ツベシ

地獄説

佛氏ノ言ニ曰ク、今世ニ
惡ヲ為ス者ハ死シテ後
チ必ズ地獄ニ墮チ、剉銷
春磨ノ苦ヲ受ト、嗚呼此
ノ言ニシテ果シテ信ナ
ラシメバ、死者モ亦知ル
所アラリトセン、死者ニ

○蝶ニ隨ヒ鶯ニ伴フモ亦忙ハシ○誰カ之
ヲ開中ノ富貴ト云ンヤ○酒アリ有アリ又
月アリ、花ニ向テ此ノ三者ヲ愛ス、四時ニ於
テ獨リ春ヲ然リト為ス○吟スル者アリ舞
スル者アリ、各々其ノ樂ミヲ尽シテ去ル○
○余レ偶々爛醉セリ、因テ肩輿ヲ傭フテ歸
途ニ附キ、即夜之ガ記ヲ作ル、

鬼怒川捕鮭記

鬼怒ノ川タル實ニ北總ノ中央ニ位シ、遙々
トシテ西南ニ流レ、刀根川ニ合シテ海ニ入
ル、其ノ水ノ清冽ナル、玉ノ如ク、氷ノ如ク、以

ヲ駐メテ
見ル○橋
ニ倚テ望
ム○馬ヲ
立テ眺望
ス以上八野外
ニ在リテ眺
望ニ
○或ハ
吟シ或ハ
歌ヒ○或
ハ笑ヒ或
語リ○

シテ知ル所口無ラシメ
バ、謂フ所口十五ナル者
果シテ何ノ刑戮ヲ施ス
所アラシヤ、然リト雖
今世ニシテ善ヲ為セバ、
必ズ福ヲ得テ惡ヲ為セ
バ、又必ズ災ヲ取ルノ應
報アレバ、安ソ知ン佛
氏ノ謂フ所口來世ノ地
獄ナル者ハ、即チ今世ノ
刑戮拷掠ノ慘ナルヲ而

テ冠纓ヲ濯フベク、以テ足ヲ濯フベク、
而シテ刀根ハ、則チ遼流西岸ヲ拍チ、波浪人
ヲシテ寒心セシム、真ニ謂フ所口涇渭異
リスル者ト謂フベシ、鮭ノ卵育スルヤ、必ズ
鬼怒ニ於テシテ、刀根ニ於テセズ、豈ニ其ノ
清濁ノ異ルアルヲ以テ、然ルヲ致スカ、余ノ
北總ニ遊バヤ、鮭ヲ捕ルヲ見、其ノ法々
ル、漢人裸體ニシテ水中ニ入り、鮭ノ來ルヲ
窺ヒ、雙手ヲ以テ、鮭ノ腹下ニ及ボス、而シテ
鮭更ニ動サレバ、急ニ之ヲ捕ヘテ、舟中ニ納
ル、其ノ駛其ノ巧、真ニ人ヲシテ驚倒セシム

或ハ歌ヒ
或ハ舞フ
以上ハ觀花寺遊
宴事ニ用ス
○詩ヲ題
スル者ア
リ○國詩
ヲ詠ズル
者アリ○
彼ヲ品シ
此ヲ評ス
ル者アリ

シテ之ヲ來世ト云フ者
ハ抑々彼ノ善導妙喻ニ
シテ彼モ亦其ノ決シテ
有ナキヲ知ル者カ余レ
偶々此ニ感ズル所アリ
之ガ説ヲ作り以テ田夫
野郎ニ告ルノミ敢テ彼
ノ徒トフ惡ムニ非ザル
ナリ

否ザレバ大綱ヲ下流ニ張リ鮭ヲ追テ網中
ニ入ラシメ而シテ之ヲ捕ス余レ之ヲ觀ル
ヤ幸ヒニシテ數十尾ヲ得タリ乃チ其ノ最
トモ巨大ナル者ヲ購欲ス之ヲ喰フニ其ノ
味ノ美ナルヲ他邦ノ及ブ所ロニ非ズ是レ
蓋シ水土ノ然シムル所ロニ因カ嗚呼閑化
ノ今日ニシテ養鮭ノ法モ亦至ルト云フベ
シ豈ニ獨リ水土ノ是非ヲ論ゼンヤ其レ必
ズ將ニ鬼怒ノ鮭ニ勝ル者アラントス余レ
是ニ感ズル者アリ之ガ記ヲ作ルト云示ス

熟語

浮屠氏ハ元來輪廻ヲ以

熟語

以上右
○輕
風一陣○
和風陣々
○韶風幾
陣○東風
嬌々ハル風
ニモチエ
○浦々
ノ風○浦
々ノ月○
浦々ノ花
遊行等ノ文
ニ用ユベシ

テ説ヲ立ツ○之ヲ囚ス
ルヲ見ルニ牛鬼アリ人
ヲ拷掠スルヲ今ノ獄中
ノ如シ○豈ニ夫レ前身
ノ我タルヲ知ランヤ○
今ノ後ト豈ニ異ナルア
ランヤ○是ニ於テカ聖
人ハ生ヲ説テ死ヲ説ザ
ルナリ

源ヲ某山ノ某處ニ發シ遙々トシテ某ノ方
ニ流ル○某ノ魚ヲ以テ第一ノ産トス○水
ハ少シク濁ルト雖モ一ハ潢沔ノ便アリニ
ハ魚蝦ノ利アリ○獨リ漕運ノ便アルノミ
ナラズ○凡ソ某ノ地ニ至ル者ハ必ズ此ノ
水ヲ渡ラザルヲ得ズ○近日汽船ノ行ハル
ヨリ行旅ノ便モ亦タ多シ○其ノ産ニハ
鯉若クハ鰻ヲ以テ第一トス其ノ他ハ則チ
奉テ計フベカラズ○終日樂ミテ猶ホ厭
ル者アリ○真ニ謂フ所口江山此ノ如キニ
一句モナキ者カ余是ニ慚ツ○幸ヒニ同遊

聖人無夢說
莊子ニ曰ク至人ニ夢ナ

○幾多○

○幾箇○幾

○幾陣

○月花

○籠ム○烟

○柳ヲ籠ム

○輕烟ハ

○櫻花ヲ罩

○霜曉○

以上ハハルノ
ム
ケイシヨ之用
エヨリアテ
ハジメニ用ユ
自ラ笑フ

霜色○霜

光○一夜

○一風

○一遣

○一

○一

○一

○一

○一

○一

○一

○一

シト、思シテ夢ナキカ、論

語ニ曰ク吾復夢ニ周公

ヲ見ズト、然バ則チ聖人

ニ夢ナキノ説ハ虚誕ト

謂フベキカ、余ハ未ダ其

ノ執レカ是ナルヲ知ラ

ザルナリ、今夫レ凡人ニ

シテ晝間甚ダ其ノ筋骨

ヲ勞シ鼻息、齟々トシテ

熟睡スレバ、其ノ夜ハ必

ズ夢ミルナシ、果シテ

然バ凡人モ亦夢ナシト

言テ可ナランカ、蓋シ孔

子ハ聖人萬世信ヲ取ル

ノ一人ナリ、而シテ論語

ノ言アレバ、其ノ夢アル

ヤ必セリ、若シ夢アリ而

シテ後ニ凡人ト為シ、夢

ナシ、而シテ後ニ聖人ト

為セバ、孔子モ亦未ダ聖

人ト為スヲ得ズ、豈ニ可

ナランカ、余ハ則チ莊子

者ヲ得テ、一日ノ歡ヲ尽スヲ得タリ

梅花書屋記

林和靖ノ後ニ梅ヲ愛スル者ヲ聞ズ、是レ梅

ヲ愛スル者ナキニ非ズ、梅ト其ノ操ヲ同フ

スル者ナキナリ、夫レ梅ナル者ハ花ノ高潔

ナル者ナリ、苟クモ其ノ操ナケレバ、之ヲ愛

スト云フト、雖氏実ハ之ヲ漬スナリ、嗚呼、獨

リ梅ノミナランヤ、蘭ヲ愛スルハ、必ズ屈原

ノ如クニシテ可ナリ、菊ヲ愛スルハ、必ズ陶潛

ノ如クニシテ可ナリ、今某君ハ、摺紳ナリ、而シ

テ其ノ書屋ニ題スルニ梅花ヲ以テスル者

ハ果シテ何ノ意ゾ、屈子ノ蘭ニ於ハ其ノ皎

潔孤芳ノ状アルヲ以テナリ、陶子ノ菊ニ於

ハ其ノ晚菫獨秀ノ操アルヲ以テナリ、而シ

テ林子ノ梅ニ於ハ最モ其ノ能ク似タル者

ナリ、故ニ其ノ之ヲ愛スルヤ最モ深シテ最

モ能ク其ノ情ヲ得タリ、是レ其ノ之ヲ愛ス

ト云フニ足テ、之ヲ漬サル所以ナリ、今某君

ノ其ノ書屋ニ題スル、其レ是ニ一アルカ、曰

クナシ、是レ余ガ疑フ所ナリ、然リト雖、且前

ノ三氏ニ貴ブ所ノ者ハ、其ノ心ヲ以テシテ

其ノ跡ヲ以テセザレバ、則チ其君ノ梅花

○寂寞○

一寥○蕭

岑○一寂

○一條○

寥々○蕭

然○寂々

○藜杖○

孤筇○枯

筇○吟杖

○一筇

フ云 ○静ニ

聴ク○卧

シテ聴ク

○微ニ聴

ク○細ニ

聴ク○潜

ニ聴ク○

耳ヲ側テ

、聴ク○

簾ヲ隔テ

、聴クニキ

上巳事命八元五百頁上

上巳事命八元五百頁上

ノ言ヲ信ゼザルナリ、

熟語

人ノ夢ニ於ル其ノ原因

果シテ何レニ在ヤ○古

人夢ヲ以テ良相ヲ得ル

者アレバ、夢モ亦無ヲ以

テ善トセズ○是ニ由レ

ハ聖人モ果シテ夢アル

ナリ○豈ニ獨リ聖人ニ

シテ夢ナカラシヤ

雲論

縷々トシテ、絲ヲ吐ガ如

ク、浮トシテ、漆ヲ蒸ガ

如ク、忽チニシテ、山ヲ擁

シ、林ヲ籠メ、或ヒハ翻ヘ

リテ、旌旗ト為リ、或ヒハ

聯リテ、瓔珞ト為リ、其ノ

覆フハ、如ク、其ノ旋

ルハ、輪ノ如ク、其ノ正、其

ノ爽、一トシテ、奇ナラザ

ルナク、妙ナラザルナク、

人ヲシテ、佳ト称シ、快ト

ニ於ルモ、其ノ心ヲ以テシテ、其ノ跡ヲ以テ、セザレバ、則チ豈ニ其レ不可ナル所アレシヤ、其君其レ以テ如何ト為ス。

熟語

蓮ノ君子タル、竹ノ虚心タル、其ノ取ル所ハ

一ナリ○梨花ノ雪ヲ欺キ、海棠ノ錦カト疑

ハル、ハ、唯其外部ハ美濂ナルニ取ルノミ

○松栢ノ後凋ニ於ル、梅菊ノ晚節ニ於ルハ

其ノ操ニ取ルアルナリ○古人ノ草木ニ於

ルハ一トシテ取ル所無トセズ○其ノ心

ニ取ルアルカ、蘭菊アリ、其ノ美ニ取ルアル

カ、櫻花ヲ以テ本邦ノ第一トス○古人ノ徳

ヲ草木ニ比スルモ、其レ謂ナシトセズ○是

レ謂フ所コト、花實ヲ具フル者カ、其子ノ意、其

レ必ズ此ニアラン。

觀競馬記

競馬ノ戲ハ昔來加茂ヲ以テ最ト為ス、今ハ

則チ所在皆同シ、大抵二人馬ヲ馳テ、其ノ遲

速ヲ競フノミ、然レ其ノ馬ノ駿、其ノ人

ノ巧拙トニ因テ、大ニ其ノ程度ヲ同フセザ

ル者アリ、今余ガ觀ル所ノ者ハ、一聲ノ鼓音

ト與ニ、兩人馬ヲ驅テ先ヲ競フ、一箭ノ如ク、

〇一樓〇

水亭〇

〇榮名〇

〇一聞〇

〇一語〇

〇一校

〇一鴛

〇一語

〇一語

言ハシムル者ハ雲ノ意

ヲ得テ中天ニ弥漫スル

ノ時ナリ其ノ一旦風ニ

吹ルニ及ビテハ忽然

トシ其ノ形ヲ失ナフ是

レ其ノ意ヲ失ナフ時

ナリ之ヲ官途ニ喩フル

ニ甚ダ似タル者アリ其

ノ初メ仕進スルヤ絲ノ

如ク其ノ漸ク進ミ俸祿

厚ク威權貴キ其ノ意ヲ

丸ノ如ク飛ガ如ク閃ク

其ノ如ク電母モ以テ

其ノ駛ヲ争フ能ハズ

較スル能ハズ真ニ一瞬

千百里ノ思ヲ爲ト謂

スベシ若シ周ノ穆王ヲ

バ其レ必不快ト稱シテ

此ノ技ヲ學ビ

驛留録耳ヲ棄テ此ノ場

中ノ馬ヲ取テ既ニ

シテ其ノ勝者ハ小旗ヲ

手ニシテ司場者ニ

謁シ其ノ勝ヲ得ノ狀ヲ

具シ又其ノ居處ニ

歸ル其ノ意氣ノ揚々タ

ルハ恰モ是レ戦

勝テ賞ヲ得ルガ如ク其

ノ勝ザル者ハ茶然

トシテ沮喪ノ色ヲ見ハ

シ馬モ亦累然トシ

一轉

〇西又

東〇路西

東〇水ノ

西東〇一

西一東

〇四

〇四

〇四

〇四

〇四

得ルノ時ナク其ノ一旦

官ヲ免シ位ヲ去ニ及テ

ハ人ノ之ヲ願ミル者ナ

カラントス豈ニ御ト稱

シ美ト言シヤ是レ意ヲ

矢ナフノ時ナリ警メザ

ルバケンヤ雲喩ヲ作ル

熟語

騰チ天際ニ至ルニ及テ

八俯仰ニ百變ス〇種々

ノ異狀殫ク速アベカラ

テ場外ニ退ヅク正ニ是レ

戦ヒ敗レテ敵ニ

降ルノ狀ノ如シ嗚呼是レ

一場ノ遊戯ト云

フト雖氏其ノ意氣形狀ノ

異ナル此ノ如キ

者アリ況ンヤ一國ノ勝敗

存亡ニ於テ

ヲヤ是ヲ見ル者誰カ感歎

ノ心ヲ生セザラ

ンヤ因テ記シテ以テ同好

者ニ班ト云爾

熟語

其ノ場中ニ入ルニ當リテ

ヤ傑然トシテ

國驍モ此ヤアラント疑ガ

ハル〇或ハ道テ

勝スル者アリ或ハ一鞭

シテ勝ヲ得ル者

同シミナケ

ノオナシ
○村ソノ

童○牧トウ

○樵シウ

釣テウ○耕コウ

○笑シウ

イナカノダ
シライフ

夷語○蟲イ

吟○蟲聲イン

○鳴メイ

レカ又ハク
ヲキクニ用ユ

○亦天下ノ至變ト謂

フベキカ○故ニ雲喩ヲ

作りテ之ニ示ス○雲モ

亦怪ト云フベキカ○豈

ニ獨リ雲ヲ然リト為シ

ヤ

情實說

情實トハ何少薄情ノ反

体ナルカ曰ク然ラズ即

チ公義ノ反体ナリ今此

ニ人アリ忠義ノ心アリ

リ○其ノ勝ヲ得ルニ當リテヤ喝采ノ声

モ波浪ノ湧カ如ク○或ハ其ノ馬ヲ評シ或

ハ其ノ人ヲ品シ○場中廣ト雖モ觀者ノ

増ノ如キヲ以テ甚々狹ヲ覺フ○穆王ノ八

駿元弘ノ千里馬ト雖氏或ハ勝ル能ハザル

カト訝カル○是レ一時ノ遊戯ト雖氏亦軍

軍ノ一ト云フベシ豈ニ忽ニスバケンヤ○

之ヲ軍神ニ供ス亦故ナシトセズ

熟語

獵兔記

吾郷ニ兔多シ嘗テ伴ヲ結ビテ之ヲ獵ス其

融々○孔

々融○孔

然ハルノケイシ

○東宮○

春テシシノ

○英雄

○雄畧○

○豪

○術窮ル

ト雖氏嘗テ一丁字ヲ知

ズ腕力ハ人ニ勝ルト雖

氏嘗テ算數ヲ知ズ是ヲ

以テ高門ニ趣走シ父母

ノ老衰ヲ唱ヘ家産ノ凋

零ヲ訴ヘ小官ニ補セラ

レンヲ請求スルガ如キ

其ノ情実ハ大憫ムベシ

ト雖氏之ヲ小官ニ奉

カ固リ公義ニハ非ザル

ヘシ此ニ於テカ情実ノ

ノ法多シト雖氏網ト犬トニ如ハナシ其ノ

最モ善ハ之ヲ兩用スルナリ網アリ犬ナケ

レバ網ヲ脱スル者ヲ得能ハズ犬アリ網ナ

ケレバ教頭一時ニ得ル能ハズ是レ其ノ兩

用スニ如クナキ所以ナリ吾ノ嘗テ獵スル

ヤ網ヲ山後ニ張り山前ヨリ犬ヲ縦テ之ヲ

逐フ兔コレヲ見テ山後ニ走り自ラ跳リテ

網中ニ入ルト恰モ落花ノ蜘蛛ノ網ニ掛ル

ガ如ク若シ夫ノ網ヲ脱スル者ハ犬ノ之ヲ

獲ル恰モ鐘馗進士ノ鬼ヲ捕ルガ如ク一ノ

脱スル者アルナシ豈ニ策ノ得ル者ニ非ス

上巳書論説五百題上

○計一リ

○一審

紅楓○丹

○霜

○錦

○青空

○晴

○碧

○軟紅

○粉紅

○深

○醉

○醜

○閃

○絲

○四

○通ノ地

○五達ノ地

○逕ニ通

説起レリ、而シテ此等ノ如キハ情実ノ尤モ憫ムベキモノナリ、然レド之ヲ奉レバ公義ニ反ス、君子ノ是ヲ履スル其ノ果シテ如何ゾヤ、若シ夫ノ凄凄請託ノ情實ノ如キハ、余レ之ヲ作ケテ、情實ト云ハザラントス。

熟語

人ハ本木石ニ非ス、何如

ヤ困テ思フ蒙將軍ノ中山ニ獵スルヤ毛穎ヲ獲テ秦ノ始皇ニ獻シ、是ヨリ世ニ文字ノ便利ヲ得タリト、今マ余レ獵シテ獲ル所モ亦此ノ毛穎ナリ、而シテ別ニ文字ノ便利ヲ得ザレバ、豈ニ之ヲ徒遊ト云ンカト、友人傍ヨリ答テ曰ク、否然ラズ、余ノ獵ニ於ルハ、徒遊中ニ寓スルナリ、彼ノ獵ニ於ルハ、意ヲ軍中ニ神ルナリ、故ニ彼ニ文字ノ便ヲ得テ、余ニ兵事ヲ忘レザルノ義アリ、豈ニ之ヲ徒遊ト云フベケンヤト、皆曰ク善ト、遂ニ獲ル所ヲ載セ、歸リテ之ヲ庖厨ニ充ルト云

ゾ情ナカラシム○或ヒハ貪婪ヲ唱ヘ、或ヒハ舊恩ヲ訴ス○舊友ノ落魄ヲ憫ミ、其ノ不才ヲ薦奉スル之ヲ情實ト云フハ猶ホ可ナリ○既ニ公義ニ反ス、豈ニ可ナランヤ、余ハ之ヲ取ラザラントス。

ス。

熟語

兔ノ性狡ト雖、凡犬ニ逢バ、其ノ狡ヲ施ス所ナシ○高キニ登ハ、其ノ疾ト犬モ亦及バザル所アリ○古シヘ韓廬ト能ヲ争ソ者アリト○藜藜ヲ披ヒテ之ヲ逐ヘバ、其ノ獲ル必セリ○之ヲ逐フハ、犬ニ如ハナシ、之ヲ獲ルハ、網ニ如ハナシ○其ノ肉ハ食フベク、其ノ毛ハ以テ筆ト為スベシ、豈ニ産業ノ一種ニ非ズヤ○之ヲ捕フルニ人ヲ害セズ、之ヲ得ルモ亦易シ、豈ニ獸獵中ノ佳ナル者ニ非ズ

ズ○一徑

清華ノ上ニ位スル一ア

通ズ○小

ルベシ果シテ種ナキカ

徑通ズ○

家ヨリ起リテ宰相ニ至

四方ニ通

ル者アリ是ニ於テカ人

ズニ用ユルナリ

ニ貴賤富貴ノ別ナキノ

○孤蓬○

説起ル豈ニ天理ノ正ト

漁一○短

謂ハザルベケンヤ然リ

一○晚一

而シテ王族相將ノ分ト

○雨一トモ

貴賤富貴ノ別アル者ハ

○日烘

何ゾヤ是レ天ノ其ノ学

○晴一○

術ニ與フル所ニシテ其

ヤ○余ノ獵兔ニ於ル豈ニ唯遊興ノミナラ
ンヤ

柳暗花明樓記

某君某其ノ讀書ノ樓ニ編シテ柳暗花明ト
云ヒ余ヲシテ之ガ記ヲ作ラシム余レ嘗テ
其ノ樓ニ登レバ南ハ滄海ニ臨ミ其ノ他ノ
三面ハ茫々タル平田曠野ヲ望ミ其ノ眺望
ノ佳ナル亦羨ムベシ然レ氏嘗テ一樹ノ楊
柳ナク又嘗テ一朶ノ花ヲ見ズ因テ其ノ樓
ニ各ヅクル所以ヲ問ハ君笑ヒテ答ヘズ暫
クシテ答テ曰久是レ子ニ記ヲ乞フ所以ナ

熏ト○烘

ノ人ニ與フル所ニ非ズ

カ如シト

誠ニ見ヨ學術アル者

○冬

非レバ相將ニ位シ富貴

ヲ守ル○

ノ樂ミヲ享ル能ハス若

一○トヲ涉

夫ノ輓車夫ノ如キハ學

ル○冬ヲ

術ナク智識ナシ而シテ

忍ブ

學術ナケレバ王侯ノ家

○暮

ニ生ルモ終ニ其ノ尊

鐘○晚一

キヲ保スル能ハス余レ

○遠一

是ニ於テ王侯相將ノ果

リト余レ是ニ於テカ頻然ト悟リテ曰久嗚

呼余レ始テ子ノ意ヲ得タリ昔シ晋ノ陶元

亮ハ無絃琴ヲ撫セリ人ノ之ヲ問フ者アレ

バ則チ曰ク余ハ琴中ノ趣キヲ知ルノミト

今マ子ノ此ノ樓ニ於ルモ亦此ノ如キノミ

其ノ柳暗ハ眼ニ見ルニ在ラズシテ心ニ在

リ其ノ花明モ亦然リ且ツ此ノ語ハ陸放翁

ノ詩ノ句ヲ取レバ子ノ慕フ所ノ者ハ其レ

果シテ此ニ在ルカ夫レ眼ニ在ル音ハ時

シテ凋零ノ患アリ而シテ心ニ在ル者ハ時

上紀遠論八記

リ、因テ之カ説ヲ作ル。

熟語

夜ノ鐘 ○半
 乙夜ノ一
 ○分夜ノ
 一 夜中ノカネ
 二用フ
 ○曉一
 殘夜ノ一
 ○曙一
 曉ヲ報ズ
 ル一
 青松

古人モ言ズヤ、天ハ人ノ
 上ニ人ヲ造ラズ人ノ下
 ニ人ヲ造ラズト○何ヲ
 以テ富貴ナル天ノ其ノ
 學術ト智識トヲ滾スル
 ナリ○無学無智ニシテ
 貧賤タルヲ免カレザル
 亦何ゾ怪ムニ足ラン○
 賢愚ハ則チ貴賤ノ原因

眼ニ滄海曠野ヲ望ミテ心ニ柳暗花明ヲ思
 ハ、豈ニ人間ノ至樂ト云ハザルベケンヤ
 是レ子ノ余ニ記ヲ作ラシムル所以ナルカ
 ト、君曰ク是レ余カ心ヲ得タリト耶、此ノ
 言ヲ記シテ以テ贈ル

熟語

古人ノ花ヲ愛スル多クハ色ニ在ラズシテ
 徳ニ在リ○徒ニ其ノ艶冶ノ色ヲ愛スレバ
 必ス衰へ易キノ憂アリ○之カ徳ヲ愛スレ
 バ、又自ラ省ミル所ノ者アリ○古人云ハズ
 ヤ、灼々タル園中ノ花早ク開ケバ却リテ先

非ズヤ

洗竹説

凡ソ竹ノ性タル新ナル
 者ハ妍ニシテ老ナル者
 ハ勁ナリ、世ノ人皆勁ヲ
 憎ミ、妍キヲ愛スルガ為
 ニ洗竹スル者モ、必ズ勁
 キ者ヲ斬リ去リテ、妍キ
 者ヲ留ム、是レ豈ニ竹ノ
 用ヲ知ル者ナランヤ、苟
 クモ竹ニシテ其ノ妍ヲ

ゾ萎ムト○物ノ廢興固ヨリ期スベカラズ、
 況ンヤ艶花抑緑ノ時アリテ凋零スル者オ
 ヤ○之カ不易ヲ期センカ、無形ノ萎衰ナキ
 者ニ如ズ○人ノ老ヤスキハ譬バ花ノ散リ
 ヤスキガ如シ、又何ンゾ怪ムニ足ンヤ○是
 レ余ガ子ニ望ム所以ナリ、

覽閣書籍書院記

本院ハ某氏ノ首唱ニヨリ結社釀金シテ成
 立スル所ニ係レリ、余レ屢々此ノ院ニ遊ビ
 書籍ヲ覽閱スル一ヲ得タリ、其ノ書タルヤ、
 第一ヲ國書ト為シ、第二ヲ漢籍ト為シ、第三

霜一〇寒

一〇荒

アキアエノ江

ニモチフ

春一〇暖

一〇烟

ハルノ江ニ

用フミシ

窓ヲ穿ツ

〇窓ヲ打

ツ〇窓ニ

瀝グ〇窓

ニ入ル

君子ニ問ス

石造家屋説

余レ聞ク歐米各州ノ都
府タル其ノ家屋ハ皆石
造若シクハ煉化石ニシ
テ風モ倒ス能ハス火モ
燒ク能ハズ其ノ堅牢ナ
ル驚クミシト吾カ邦モ
輒近其ノ制ニ效フ者ア
ル其ノ便ナルハ木製ニ
及バザル者ノ如シト雖

之ニ醜ルト雖也益アリテ害ナキモノハ只
其レ書籍カ〇人智ヲ開發スル者ハ書ニ如
ハナシ而シテ其ノ書ニ於ル多々益々作ト
為ス〇書ニ各般アルハ其レ猶ホ人ノ心ニ
各種アルガ如キカ〇天下ノ人誰カ冊子ヲ
藏セザラン只其ノ多キニ至リテハ則チ皆
然ル能ハズ〇書籍院ノ設アルハ古ヘヨリ
スト雖也其ノ盛大ヲ極ルト其ノ縦覧ヲ得
セシムルトニ至リテハ只今日ヲ然リト為
ス〇其ノ廣ク人ニ益スル豈ニ獨リ本邦ノ
人ノミナランヤ

トニルニ

モチフ

枝〇第一

ノ一〇最

高ノ一〇

半ハ枝ニ

糝ス

用〇一

辞ス〇嫩

一〇瘦

折ル〇喬

凡其ノ水火ニ於ルハ甚

ク便ト云フベシ是レ他

ナシ其ノ質ノ堅緻ナル

ニアルノミ今夫レ堅緻

ハ石ノ性ナリ忍耐ハ人

ノ性ナリ人ニシテ忍耐

ヲ用ヒザルハ猶ホ又石

ニシテ堅緻ノ質ヲ見サ

バルト同シ天下豈ニ此

ノ理アラシヤ人ニシテ

能ク忍耐ノカヲ用バ其

討論會記

今茲某年某月日ヲ以テ大ニ諸名家ヲ會シ
某ノ樓上ニ於テ討論會ヲ為シ徧ク衆庶ノ
傍聴ヲ縱セリ余モ亦其ノ席末ニ在リテ之
之ヲ聴ケリ其ノ論題ニハ人ハ何物ゾ又
政ハ正ナリ制ニ非区等ニシテ盡ク政治上
ニ涉ルト雖也遽モ政府ヲ誹謗スルノ意ナ
ク一言一語ト雖也曾チ官吏ヲ指斥スルノ
心ナシ故ニ其ノ論スル所ハ激ニ涉ルニ似
タリト雖也其ノ説ク所ハ民權主張ニ帰ス
ルト雖也教唆煽動ノ意ナシ是ニ於テ尤熾

○風一
○低一
○夕
陽移ル
斜陽移ル
斜照
○落照
ル
○夕
然トシテ
無ル○無

ノ功績竹帛ヲ照シテ其ノ名譽千萬世ニ傳フベシ。豈ニ獨リ水火ノ寤ヲ免ル、ノミナランヤ。後生其レ以テ如何ト為スヤ

熟語

其ノ高ヤ五層六層ナル者往々ニシテアリ。恰モ是レ一片ノ大石四合スルモノノ如シ。○甚ダ

緒ニ之ヲ聽シムレバ、自ラ激厲興起ノ情ヲ生ゼシム。頑夫ニ之ヲ聞カシムレバ、自ラ一層ノ擬雲ヲ開テ始メテ、天日ヲ望ミ、半片ノ頑心ヲ開テ、數畎ノ智覺ヲ進ムルヲ得セシム。豈ニ衆庶ノ大利益ニ非ズヤ。宜ナル哉。一論ノ畢ル毎ニ、唱萊ノ声、樓上ヲ動シ、恰モ是レ三軍ノ戰ヒ勝テ、凱歌カラ奏スルカ如シ。此ノ場中ニ在リテ、誰カ心ヲ愛國ニ尽シ、精ヲ民權ニ動スニ至ラサル者ナランヤ。嗚呼、開明ノ進歩シテ、此ニ及ブ者ハ果シテ誰ノガザヤ。皆ナ是レ我ガ文明政府ノ薰陶セザ

々タリ○
地ヲ拂ツ
テ坐ル○
嬌然トシ
テ一ルキ
エダノタル○
ニモチア
幾陣吹ク
○面々
ク○花ヲ
一ク○柳
ヲ一テ輕

政柄者ニ類スル者アリ。剛者ノ一日モ無ルベシ。○然リ而シテ世人ノ剛者ヲ諱テ、柔者ヲ喜ブ者ハ何ソヤ。

熟語

カノ用タル已ヲ衛ルヲ以テ主ト為スカ、彼ヲ殺テ以テ主ト為スカ、若クハ以テ士人、濶潤ノ裝飾

ル所ナリ而シテ、或ハ之ヲ人民ノ自ラ為シ自ラ至ルト為スハ、感ルノ甚ダシキニ非ズヤ。是レ一人ノ私言ニ非ザルナリ、因テ之カ記ヲ作ル

熟語

其ノ取ル所ノ者ハ、論題ニ在ラシテ、其ノ論スル所ノ人ニ在リ。○其ノ説ハ、婉ナリト雖、其ノ意ハ甚ダ激スル所アリ。○端クモ愛國ノ心ヲ存スル者ハ、誰カ此ノ會ヲ非トスル者アラン。○或ハ曰ク、是レ民ヲ害シ、國ヲ瘡スル者ト是レ此ノ會ハ、皆注ヲ知ラザル

シカセノフクニ
モチフベシ
○殊ニ奇
ナリ○奇
ヲ呈ス○
奇トナス
ニ足ル○
亦奇ナル
カナ○亦
奇ト云フ
ベシ○豈
ニ奇ナラ

ト為スカ自ラ衛ルガ為
ナラバ一日モ腰間ヲ離
ルベカラス人ヲ殺スガ
為ナラバ其ノ職ニ非レ
バ佩テ得ザルベシ着シ
夫ノ腰間ノ裝飾ナラバ
木刀ニ銀ヲ塗モ亦可ナ
リ何ソ必ズシモ金鐵ヲ
用エルヲ為ンヤ是レ其
ノ脱刀ノ論ノ起ル元素
ニ非ズヤ既ニ刀ヲ脱ス

者ト云フベシ○國氣ノ城壕ハ固ヨリ人民
智覺ノ進退ニ関スル者アリ○古ハ俳諧ノ
水ヲ建テ言路ヲ闊ク者アリ況ンヤ今日ノ
開明世界ニ於テヤ○山村僻邑ト雖モ猶
ホ此ノ會ノ設ケアリ豈ニ潤脚進步ノ一驗
ニ非ズヤ此ノ會ヲ設クルヨリ人庶皆面目
ヲ映ムルノ色アリ豈ニ羨事ト謂ハザルベ
ケンヤ
近江八景画記
古刹翠微ノ間夕ニ隱見シ一輪ノ寒月中天
ニ掛リ霜色ハ天涯ニ滿テ落葉ハ秋風ニ吟

ズヤ○
モ亦一ナ
リ
○人ニ可
ナリ○
ニ宜シ○
ト合フ
○舊知○
故人○知
已

ルヨリシテ之ヲ論セン
カ刀ヲ脱スルモ士ハ則
チ士ナリ刀ヲ佩ルモ安
リニ人ヲ殺スヲ得ザレ
バ刀ヲ脱スルニ齊シ是
ニ於テカ脱刀ノ論決ス
刀ヲ脱スルモ猶ホ刀ヲ
以テ人ヲ害フ者アリ况
ンヤ刀ヲ脱ヒザルニ於
テヤ果シテ然ラバ刀
ヤ今マ其ノ所ヲ得タル

スル者ハ一見シテ石山ノ秋月タルヲ知ル
連山白雪ニ埋没シ一嶺突起シ嘗テ一葉ノ
翠色ヲ見ズシテ滿眼ノ銀世界カト訝ル者
ハ則チ比良山ノ暮雪ナリ一林ノ夕陽萬頃
ノ碧波ヲ照シ幾箇ノ風帆ハ東西ヨリ帰來
ス船中ノ喜バシムルチキ者ハ問ハズシテ矢
橋ノ帰帆タルヲ知ル城郭湖水ニ臨ミ翠色
洗フガ如ク東風晴ヲ吹テ春光ノ輝々タル
者ハ粟津ノ晴嵐タルヲ知ル古松叢祠ヲ擁
シ風雨暗澹半ハ松風ト作り半ハ雨声ト作
リ人ヲシテ慘然タラシムル者ハ唐崎ノ夜

○子規
杜宇 ○杜

鶻 ○蜀鳥

○幽姿 ○瘦

○真一 ○天

○艶一 ○芳

○潮喻

カナ其ノ所ヲ得タルカ
ナ

熟語

之ニ國ヲ衛ルノ用ト為
ントスト云フカ平生ニ
之ヲ佩サルモ亦可ナリ
○其ノ用ノ鳥銃ニ及バ
サル三尺ノ童子モ能ク
知ル所ナリ

潮ノ来ヤ其ノ初ハ徐々

雨ナリ幾行ク雁字カ連々トシテ陣ヲ為シ
月ニ鳴キ風ニ叫ビ恰モ是レ孔明カ八陣ノ
如キハ乃チ堅田浦ノ落鴈ナリ沙島風帆ハ
一株ノ夕陽ヲ帯ビ人影水ニ印シテ橋ト長
ク天色豁然タル者ハ一覽シテ勢田ノ夕照
ナルヲ知ル高塔雲際ニ聳ハ蒼然タル暮色
满面ニ溢レ画圖ト雖モ猶ホ鐘聲ノ響アル
カト疑フ者ハ三井寺ノ晚鐘ナリ嗚呼此レ
景ニシテ此画アルカ此ノ画ニシテ此ノ景
ヲ寫シ出スカ余レ未タ其ノ如何ヲ知ラス
ト雖モ終ニ是レ常景凡画ニ非ス因テ之ガ

熟語

記ヲ作り巻端ニ書シ以テ其ノ人ニ帰ス
秋風蕭颯トシテ天色自ラ水ノ如シ古木森
然トシテ寒山ヲ擁スルカ如ク○月光鏡ノ
如クニシテ天未タ夜ナラサルカト疑ガフ
雲淡ク天低シテ銀花漫々タリ○滿天ノ玉
鹿ハ吟身ヲ慰ムルニ似タリ○箇々ノ客船
ハ潮ヲ趁テ帰ル○蒲帆ハ風ニ飽テ夕照ヲ
載ヒ帰ル○一抹ノ斜照ハ乱鴉ヲ射ル○雨
声ハ夜ニ入テ魂ヲ断チ易シ○雨声蕭瑟ト
シテ善ク蓬底ノ夢ヲ攪ス○一行ノ鴈字ハ

○奇一

○詩一

○賦一

○題一

○歌一

○詩一

トシテ進ミ其ノ終リヤ

渾々トシテ来ル萬馬ノ

馳驟スルカ如ク連山ノ

奔騰スルカ如ク其ノ声

殷々トシテ百雷ノ俱ニ

至リ其ノ止マル所ヲ知
ラザルガ如シ又其ノ去
ルヤ肅々トシテ歛退シ
俄ニシテ寂然声ナシ是
レ誰カ之ヲ作シ孰カ之
ヲ驅リ孰カ之ヲ卻ゾク

熟語

記ヲ作り巻端ニ書シ以テ其ノ人ニ帰ス
秋風蕭颯トシテ天色自ラ水ノ如シ古木森
然トシテ寒山ヲ擁スルカ如ク○月光鏡ノ
如クニシテ天未タ夜ナラサルカト疑ガフ
雲淡ク天低シテ銀花漫々タリ○滿天ノ玉
鹿ハ吟身ヲ慰ムルニ似タリ○箇々ノ客船
ハ潮ヲ趁テ帰ル○蒲帆ハ風ニ飽テ夕照ヲ
載ヒ帰ル○一抹ノ斜照ハ乱鴉ヲ射ル○雨
声ハ夜ニ入テ魂ヲ断チ易シ○雨声蕭瑟ト
シテ善ク蓬底ノ夢ヲ攪ス○一行ノ鴈字ハ

ヲ噓ス ○
 一ヲ吟ズ
 ○一ヲ咏
 卒シノウタフ
 コトニ用フ
 ○恭ヲ彈
 卒 ○恭ヲ
 圍ム ○恭
 ヲ敵クウツ
 ○酒旗
 ○青帘 ○
 酒市ノ棋

ル、而シテ其ノ来ルヤ候
 アリ其ノ去ルヤ信アリ
 亦奇ト云フベシ、之ニ戦
 ヲ喻フレバ、其レ猶ホ良
 將ノ兵ヲ行ルガ如キカ
 其ノ初メノ徐々スル者
 ハ、則チ處女ノ形ヲ為ス
 ナリ、其ノ終リノ渾々々
 ル者ハ、則チ脱兎ノ勢ヲ
 見ハストリ、其ノ退クノ
 肅々タル者ハ、野ニ掠ル

空ニ書スルカト疑ガノ ○鷹字月ヲ帶テ寒
 沙ニ落ツ ○橋南橋北行人忙ハシ ○一抹ノ
 斜陽萬頃ノ綠葉ヲ照ス ○雲ハ梵宮ヲ遮ル
 ト雖、鐘声ハ能ク晚ヲ報ズ ○殷々タル鐘
 声ハ、暗ニ晚風ニ隨ヒテ来ル ○其ノ伯仲ノ
 間ニ在リ、以テ之ヲ八景ト云フカ、

○百峯樓記
 友人共新ニ讀書ノ堂ヲ作り、其ノ樓ニ編ス
 ル百峯ノ二字ヲ以テス、是レ其ノ樓ノ富士
 峯ニ面スルヲ以テナリ、然レモ富嶽ハ一ノ
 ミ、而シテ之ヲ百ト云フハ何ゾ、其笑テ答テ

サカヤノシルシ
 ヲイフナリ
 ○期ヲ定
 ム ○一ヲ
 約ス ○期
 ヲトスヤク
 スルコトヲ
 イフナリ ○
 一ニ後ル
 ○一ヲ懲
 ツ ○一ニ
 違フ ○一
 ニ負クヤ

所ナク、人ニ害スル無キ
 所以ニ非ズヤ、潮喻ヲ作
 ル

熟語
 誰カ之ヲ進メ、誰カ之ヲ
 卻クルヤ、○其ノ始ヤ沸
 ヲトシテ涌キ徐然トシ
 テ来ル ○良將ノ兵ヲ按
 シ衆ヲ收テ去ルガ如シ
 ○一来一去シテ自ラト
 ムル能ハザルカ ○怪

日ク、富嶽ノ形タル朝ニ暮ニ雨ニ雪ニ春夏
 秋冬ニ其ノ形ヲ同フシテ、其ノ景ヲ異ニシ
 或ハ洗フガ如ク、或ハ眠ルガ如ク、或ハ深白
 ニシテ、一點ノ翠色ナク、或ハ淡翠ニシテ、頂
 ニ雪ヲ載キ、其ノ奇狀異態ハ、僕ヲ更ルモ数
 へ易カラズ、古ハ谷文晁氏ハ、百富士ノ畠ヲ
 画ケリ、余ノ扁スルモ亦此ノ意ナルノミ、諸
 フ子其レ余ガ爲ニ記ヲ作レト、余乃チ曰ク
 今ニシテ谷氏ノ畠、意ト子ノ心トヲ知レリ、
 余レ亦何ゾ其ノ他ヲ論ゼン、請フ子ノ言ヲ
 記シテ、以テ後人ノ疑團ヲ解ント、乃チ之ガ

ソクヲタガ
ヘルヲ云
○ 絲ノ如シ

○ 一ニ似

タリ ○ 絲

カト疑フ

アノホソキ
ニモチフ ○

翠帷ヲ為

ス ○ 緑

ヲ為ス ○

一ノ如

シ アラバノシ
ルニモチフ

奇變幻ナル一此ヨリ甚
ダシキハナシ

開化進歩起於下民
説

開化ノ進歩ハ政府ノ之
ヲ煽動スルニ由カ抑々
人民ノ競争スルニ起ル
カ余ヲ以テ之ヲ見レバ
人民ノ競争ニ起ルニ似
タリ今マ夫レ政府ノ一
令ヲ下スヤ人民甚々之

記ヲ作ル

熟語

異ナル哉君ノ樓ニ名ヅクルヤ○其ノ形貌
ヲ觀テ其ノ徳ヲ慕フハ古人ノ尤モ善ト為
ス所ナリ○其ノ半空ニ聳テ千古モ頽サル
者ハ豈ニ人ニ於テノ大節ニ非ズヤ○直立
シテ倚ラズ傍ノ諸山ニ冠タル者ハ抑々又
君ノ天下ノ上ニ立テ萬民ヲ鎮壓スルト其
ノ意ヲ異ニセンヤ○其ノ千狀萬態ヲ為ス
所以ハ雲雨ノ然ラシムル所ト雖亦其ノ
山ノ靈ニ因ト云フベシ○其ノ勢ヒ全國ノ

○ 書

一 幌

湖ノ思ヒ

○ 俗

塵思

○ 愚癡

○ 白癡

大

一

○ 芳危

ヲ便トセズ然レモ行ハ
ザル缺ハザレバ其ノ不
便ノ中ニ就テ其ノ便ナ
ル者ヲ求メントス是ニ
於テカ其ノ心思ヲ苦シ
メ其ノ智慮ヲ運シ遂ニ
其ノ至便ナル者ヲ得ル
而シテ一人コレヲ唱フ
レバ衆人コレニ從ヒ終
ニ又其ノ大至便ノ者ヲ
發見シ以テ先ノ發令ノ

鎮ト為スニ足ル者アリ○是レ其ノ樓ニ名
ヅクル所以ナルカ

拜覽延遠館園記

延遠館ハ其ノ本徳川氏ノ創始スル所ニシ
テ之ヲ濱ノ御殿ト稱ス今ハ則チ離宮ノ一
ニ備ヘラル余一日官ノ許ヲ得テ其ノ園内
ヲ縦覽スル一ヲ得タリ其ノ地タルヤ品海
ニ面シ一望千里ノ思ヒアリ其ノ三面ハ庭
樹森々然トシテ深山幽谷ノ景ヲ存シ其ノ
中ニ池アリ木橋ヲ架シ橋上ニ棚ヲ架シ尽
ゴトク白藤花ヲ蔓ス其ノ花ノ開ヤ池水相

ゴトク白藤花ヲ蔓ス其ノ花ノ開ヤ池水相

玉一〇清
一〇金一
〇瓊一
〇東
〇疎一
園一
〇纖微
〇輕一
微々〇霏
一

不便ナルヲ忘ル而シテ
其ノ至便ナル者ハ必ズ
事ノ一歩ヲ進ル者ニシ
テ或ハ政府ノ嘗テ令ス
ル所ニ勝ル者アラント
ス故ニ曰ク開化ノ進歩
ハ下民ニ起ルト若シ下
民ニシテ政府ノ令ニ唯
是レ從ハゞ又何ニ由テ
其ノ智慮ヲ運シ其ノ至
便ヲ開發スルヲ得ン

映シ上下一碧萬象下ニ在ルノ想ヲ為ス真
ニ一ノ桃園カト疑ハル矧ヤ又其ノ岩石ノ
布置ト其ノ樹木ノ排列ト宜キヲ得ニ於テ
ヲヤ又矧ヤ假山ノ起伏ト茶亭ノ結構トノ
其ノ妙ヲ得ニ於テヲヤ是ニ於テカ終日園
中ヲ徘徊シテ嘗テ倦ズ見ル所口前ニ斐シ
望ム所口後ニ改マリ既ニ見ル所モ未タ嘗
テ見ザル所ノ如ク既ニ經ル所モ未タ嘗テ
經ザルガ如シ豈奇ト謂ハサルベケンヤ是
レ其ノ終日コレヲ見テ倦ザル所以ニシテ
而シテ天下ノ稱シテ名園ト為ス所以ナリ

〇斜暉〇
殘暉〇落
暉〇夕暉
心
ト差フ〇
賞心違フ
〇風志一
フ〇雨ナ
カラ一フ
オモヒイレニ
チカフコト
雄飛〇奮

熟語
衆論ノ歸スル所ハ必ズ
事ノ至便ナル者ナリ〇
猶ホ河水ノ決スルガゴ
トシ安ンゾ之ヲ止ムル
ヲ得ンヤ〇舊弊ヲ洗滌
スル之ヲ開化ト云フノ
ミ豈ニ別ニ其ノ術アラ
ンヤ〇維新ノ政ハ是レ
其ノ一端ナリト云ハンカ

熟語
嗚呼古ヘ名園ニ誇ル者モ亦多シ若シ其ノ
人ヲシテ此ノ園ヲ見セシメバ其レ之ヲ何
ト言ン其レ必ズ稱シテ園林ノ巨擘ト為サ
ン余レ此ニ感ズル所アリ之ガ記ヲ作ル
其ノ橋ヲ架スル所ハ自カラ勢多ノ唐橋ヲ
摸スル者アリ〇夕陽ノ西山ニ傾クニ及ビ
風帆ノ歸來ヲ見レバ己ノ園中ニ在ヲ志ル
〇嘗テ市塵ノ園中ヲ侵ス一ナク〇恰モ是
レ武陵ノ桃源ニ在天人間ノ熱鬧ヲ知ラザ
ルガ如シ〇春ハ鳥声櫻花ノ艶ナルアリ夏

飛○高飛

○輪

山扉○竹

○柴

○荊

岩

○衣

薰

○衣

○透

夜

擊劍說

擊劍ノ技タルヤ、布胃竹
甲以テ其ノ身体ヲ固メ、
竹刀ヲ輪シテ兩々相ヒ
撃チ、一勝一敗以テ其ノ
技ノ甲乙ヲ較ス、是ニ由
テ負傷スル者モ往々ニ
シテ之アリ、其ノ用ヲ問
バ、曰ク上ハ以テ國家ヲ
保護シ下ハ以テ一身ヲ
守ルト、然レモ國家ヲ保

ハ藤花杜若ノ幽ナルアリ而シテ秋冬ノ雪
朔ニ於ル真ニ其ノ宜キヲ得○嗚呼一庭ニ
シテ四時ノ景ヲ備フル、此ノ如キハ亦天下
ニ希ナリト云フベシ○若シ唐ノ柳宗元ヲ
シテ、此ノ景ヲ見セシメバ、其ノ文ニ発スル
者真ニ如何ゾヤ、

某夜觀鳴原演劇記

凡ソ劇ヲ演スル畫ヲトスルヲ以テ常ト為
ス、輓近或ハ夜ヲ以テスル者往々ニシテ在
リ、余レ某ノ夜ニ友人兩三輩ト夜劇ヲ鳴原
ニ見ル、其ノ興モ亦多シ、其ノ景泥ハ紅燈數

○衣

○依

○依

○依

○依

○依

○依

○依

○依

○依

○依

護スルハ火鎗ノ遠キニ
及ヒ、衆ヲ殺スノ愈ルニ
如ス、一身ヲ守ルハ、金甲
鐵胃ノ刀モ斫ル能ハス
矢モ貫ク能ハザルノ安
キニ如ズ、而シテ其ノ用
ノ却テ節骨ヲ堅牢ニシ、
關節ヲ運轉スルニ在ル
ヲ知ラズ、嗚呼何ゾ其ノ
見ノ此ニ及バザルヤ、天
下ノ事コレニ類スル者

萬ヲ場中ニ點シ、門ヨリ堂ニ及ハ、迫テ處ト
シテ紅燈ナラザルナク、其ノ光ハ煌々耀々
トシテ、殆ド不夜ノ城中ニ在ルガ如ク、絃歌
ノ声、鐘鼓ノ音ハ、瀾々裊々トシテ、天上ノ奏
樂カト疑ガハレ、裳衣ノ翩々タルハ、手ノ舞
ヒ足ノ踏ニ從ヒ、恰カモ是レ仙女ノ雲間ニ
逍遙スルガ如シ、豈ニ真ニ人間中ノモノト
為ンヤ、況ンヤ團十郎ノ武將、俠客ニ於スル
半四郎ノ夫人、處女ニ於スルガ如キ、真ニ其
ノ人ニ接スルガ如シ、其ノ技モ亦妙ト云フ
ベシ、是ニ於テカ一曲ヲ畢ル毎ニ、嗚衆ノ声

○一
○懷フ
○欲ス
○將ニ
○花
○月
○香ヲ抱
○キテール

多シ酒ヲ嗜ム者ハ酔ノ
美タルヲ知テ歡ヲ合セ
禮ヲ為ノ用タルヲ知ラ
ズ琴ヲ好ム者ハ声ノ美
タルヲ知テ鬱ヲ散シ病
ヲ去ノ用アルヲ知ラズ
是レ其ノ智ノ足ラザル
ニ非ズ其ノ心ヲ用ザル
ノ過チノモ苟クモ心ヲ
用フレバ豈ニ其ノ見ノ
此ニ及バザルアラシヤ

將ニ場中ヲ動サントス、余レ因テ疑フ今夜
ノ觀ハ何ソ此ノ如キト、是レ蓋シ夜中ナル
ヲ以テナルカ、夫レ夜ハ萬數聲ヲ收メ精
モ亦隨ヒテ一ナリ、是ノ故ニ耳目ノ管モ他
ニ漏ル所ナク、只演劇ニ是レ從フ是レ其ノ
樂シミノ晝間ニ異ナル所以ナルカ、輓近海
外ノ王侯來リテ此ノ技ヲ見ル者其レ必ス
心ニ欽慕スル所アラン、偶此ニ感觸ス、因テ
之カ記ヲ作ル、

熟語

其ノ技ノ巧拙ニ隨ヒテ、自カラ品等ノ異ル

○詩ヲ賦
シテ歸ル
○意ヲ得
テ歸ル
○書ヲ讀ム
○書ヲ閱
ス
○一ヲ
緜ク
○看ル
○幽

擊劍ノ說ヲ作ル、
或ハ踴躍シテ相擊チ、或
ハ一進一退シテ、勝敗ヲ
決ス。○進退ノ際、行止ノ
間ニ於テ、其ノ技ノ工拙
ヲ争フ。○或ハ曰ク、身体
ヲ健康ニスト。○其ノ用
獨リ、擊刺ニ止マラザル
ナリ。○豈ニ漫ニ野蠻ノ
ノ風習ト云フヲ得ンヤ

熟語

アリト雖、夜中ノ觀モ亦奇ト謂フベシ。○
其ノ体裁ノ能ニ象ルヲ以テ、頗ル佳致アル
ヲ覺ユ。○其ノ情ニ至リテハ晝ノ觀ニ勝ル
者萬々ト謂フベシ。○其ノ慣習ニ因テ、或ハ
佳ナラズト云フ者アリト雖、觀者モ亦
自カラ悄然トシテ、演技ノ際ニ著目スル所
ノ者アリ。○若シ夫ノ夜半ノ景況ヲ演スル
ニ至リテハ、大ニ真ニ逼ル者アリ。○歌曲ノ
節奏ト、舞蹈ノ情態ト、至リテハ、或ハ疎密
ノ別アリト雖モ、○誰カ余ト此ノ觀ヲ同ノ
スル者ゾ

居○索

○寂

山○林

○雲

○溪

岩

○雨後

○餘

○睡

○午睡

鐵齋說

習慣ノ久シキ。終ニ礼ト
為ル者アリ。本邦人ノ鐵
齋ヲ以テ齒ヲ濕スルガ
如キ是レナリ。其ノ說ニ
曰ク。婦人ノ齒ヲ染ルハ
既ニ婚ヲ成シ夫アルノ
裝リト果シテ然ラハ娼
妓ハ夫ナクシテ。何スレ
ゾ齒ヲ染メ。未タ嫁セザ
ルモ宮女ノ如キハ。鐵齋

聽鶯樓記

鶯ハ候鳥ナリ。四時ニ於テ春ヲ其ノ候トス。
而シテ初春ハ其ノ聲滑カナラズ。晚春ハ聲
稍衰ヘ。初夏ハ猶ホ声アリト雖。既ニ老テ
聽ニ堪ズ之ヲ要スルニ其ノ聽クベキ時ハ
只仲春ノ一時ノミ。然ハ則チ之ヲ候鳥ノ尤
モ衰ヘ易モノト為モ亦誣ズト謂フベシ。而
シテ其君ノ其ノ樓ニ名ヅクルニ。聽鶯ノ二
字ヲ以テスル者ハ果シテ何ゾヤ。其ノ羽ノ
文彩ニ取ルアテント欲スルカ。金衣ノ目ア
リト雖。其嘗テ見ルベキノ色ナシ。抑々其ノ

ノ餘

起

覺ル後

夢餘

○園

蔬

○野

○種

○灌

○

○

○

ヲ用フルヤ。爰ニ其ノ說
ノ窮スルヲ知ル。又曰ク
是レ齒ノ堅固ナランヲ
欲スルナリト。果シテ然
ラバ。男子ハ何スレゾ齒
ヲ染メザル。公卿ハ之ヲ
染テ。武士ハ之ヲ染メザ
ル。古ヘノ婦人ハ多ク之
ヲ染テ。今ノ婦人ハ多ク
之ヲ染ザル。豈ニ昔人ノ
齒ハ脆弱ニシテ。今人ノ

声ノ明瞭タルニ取ルアルカ。之ヲ聽クハ終
二三句ノ間ノミ。何ソ樓ニ名ヅクルヲ為シ
ヤ。然リト雖。其君ノ志ハ常ニ退隱ヲ存シ。
朱門ノ中高堂ノ上ニ在ト雖。其常ニ盈ヲ戒
メ。滿ヲ警メ。嘗テ華靡豪華ヲコノマサラシメ
バ。其ノ取ル所ノ者。其レ必ズ其ノ時ヲ得ル
ノ長ラザルニ在ラン。蓋シ之ヲ以テ。其ノ身
ヲ戒ムレバ。官ヲ辞スルモ。必ズ鳳凰池ヲ奪
ル。ノ嘆ナク。職ヲ致スモ。亦必ズ志ヲ得ナ
ルノ嗟ナク。其ノ進モ亦時ナリ。其ノ退クモ
亦時ナリ。何ゾ喜嘆ヲ之レ為サンヤ。其君ノ

徐々○

然シツカナル
コトヲイフ

○草廬○

野○

○蝸○

○茅○

○荒墟○

○幽○

○孤○

○孤○

トヲイフナリ

齒ハ堅固ナル者多キノ

理アランヤ。豈ニ男子ノ

齒ハ堅固ニシテ、女子ノ

齒ハ脆弱ナルノ理アラ

ンヤ。豈ニ又公卿ノ齒ハ

脆弱ニシテ、武士ノ齒ハ

堅固ナルノ理アランヤ。

果シテ然ラバ、其ノ説如

何曰ク、習慣ノ久シキ、遂

ニ礼ト為ルノミ、今ヤ上

風下俗ノ方言ノ如ク、日

意其レ必ズ是ニ在ント、他日コレヲ質セバ、

乃チ曰ク、子ハ我カ心ヲ得ル者ト、即チ之カ

記ヲ作りテ以テ贈ル。

熟語

之ヲ心ニ取テ、而シテ声ニ取ザレバ、声常ニ

在リテ心モ亦倦ナシ○某ノ声ノ融々タ

ルハ、春和ノ候ニ宜シ○鳥ヲ以テ春ヲ鳴ス

所以ノ者ハ其レコ、ニ在カ、其様ニ名ヅク

ルモ亦必ズ此ニ在ン○此ノ地ニシテ此ノ

樓アリ、此ノ樓ニシテ此ノ名アルハ、兩々相

合ト云フベシ○市塵迷離ノ中ニシテ、此ノ

○青蕪○

○平○

○烟○

○通儒○

○宿○

○鴻○

○師○

○諄○

○千○

○萬○

○萬○

二月ニ染ザル者衆シ、豈

ニ終ニ染ザルヲ以テ、礼

ト為ニ至ントスルカ。

熟語

一ニ曰ク、女子ノ齒、裝ト

豈ニ果シテ爾ルカ○之

ヲ禮ト曰ハ、果シテ何ノ

礼ハ、娼妓ノ之ヲ染ル

者ハ、豈ニ夫アルノ意ヲ

表スルカ○余レ未ダ其

ノ孰カ是ナルヲ知ラザ

洒落ノ扁額ヲ掲グルヲ見レバ、主人ノ意推

テ知ルベシ○熱關ノ地ニ居テ、寂寞ノ境ヲ

思フハ、是レ人ノ常情ナリ○善カナ子ノ言

ヤ、請フ之カ記ヲ作ル

古物展覧會記

無仙子ナル者アリ、烏有先生ト謀リ、龍池會

ニ效ヒ、古物ノ展覧會ヲ開ケリ、縦覧ヲ許ス

一凡ソ若干日、頗ル古器物ヲ陳列セリト、余

レ乃チ往テ之ヲ見ルニ、聞ク所ニ違ハズ、其

ノ陳列ノ位ハ、第一區ヲ神代ノ器ト為ス、石

劍、石笛、曲瓊、神鏡ノ類是レナリ、第二區ヲ中

○幾一〇 舊一〇連
ルナリ〇豈ニ之ヲ婦人
ノ礼ト云ヲ得ンヤ

食喻

味ノ美ナル者ハ其ノ香
モ必ズ芳シ是ノ故ニ之
ヲ食フ者モ其ノ芳香ヲ
嗅ギ其ノ甘美ヲ味アフ
此ノ兩者ヲ兼テ始メテ
食ノ美盡タリト謂フベ
シ然ハ則チ味ト香ト其
レ偏廢スベケンヤ然レ

古器ト為ス神武帝ヨリ天智帝ノ頃ニ至ル
ノ衣冠樂器ノ類ヲ陳セリ第三區ヲ近古ノ
品ト為ス元龜天正間ニ至ルノ武具印章等
是ナリ而シテ書画ニ至リテハ別ニ一區ヲ
設ケリ是レ猶ホ勸業博覽會ニ美術館ノ一
區アルガゴトキナリ而シテ又コレヲ二區
ト為シ書ヲ右ニ列シ画ヲ左ニ陳シ又コレ
カ順序ヲ立テ年代先後ヲ以テ之ヲ排列ス是
ニ於テカ童子ト雖一覽シ其年ノ前後其ノ變
遷トヲ知ルニ足ル況ンヤ博古多識ノ君子
ニ於テヤ夫レ古器ヲ愛スル者古ヘヨリ

愉快〇甚
凡其ノ耳美ノ味アフベ

心愉〇意
其ノ實ヲ重ンツテ其ノ

ノ如シ〇
虚ヲ畧ス是レ天下ノ人

連珠ニ似
ノ能ク味ヲ知ル鮮キ所

タリ〇明
以ナリ今夫レ藝ノ詩文

一ヲ貫ク
ニ於ルモ亦然リ文ハ則

加如シ
チ實ニシテ猶ホ味ノ耳

詩ハ則チ虚ニシテ猶ホ

美ニ於ルガゴトキナリ

其ノ人ニ乏シカラズ只コレヲ家ニ藏シ
ニ秘シ獨リ自ラ珍トシ嘗テ衆人ノ展覧ニ
供セズ是ニ於テカ惟人ノ之ヲ知ラザルノ
ミナラズ又人ノ智識ヲ開發スル能ハズ古
器遂ニ無用ニ帰ス豈ニ笑フベキノ甚カシ

キニ非ズヤ今ヤ然ラズ惟人ノ展覧ニ供ス
ルノミナラズ又大ニ人ノ智識ヲ開クアリ

其ノ得失真ニ何如ソヤ是レ余ガ記ヲ作ル
所以ノ意ナリ

熟語

古器ノ用タルモ亦多以一ハ以テ時勢ノ遷

雙鳧○驚
○白
○野
○戲
○雛
○田夫

味ノ芳香ニ於ルガコト
キナリ、故ニ唯文ニ之レ
從事シテ詩ヲ之レ廢棄
セバ、論ハ草木ノ實ヲ
愛シテ、其ノ花ヲ棄ルガ
如シ、豈ニ讀書ノ真味ヲ
知ル者ト為サンヤ、然リ
而シテ天下ノ人、其ノ其
美ヲ取テ、其ノ芳香ヲ棄
ル者多シ、豈ニ笑フベキ
ニ非ズヤ、是レ余カ食ノ

移ヲ知ルニ足リ、二ハ以テ工業ノ進退ヲ見
ルニ足ル○古ヘノ事ヲ知ラント欲セバ、古
ヘノ器ヲ見ルニ如ハナシ○之ヲ篋底ニ藏
シテ人ニ見ザラシムル者ハ、之ヲ藏セザル
ト、豈ニ其ノ得失ヲ異ニセンヤ○博物館ノ
設置アルヨリ、人皆古器ノ有用タルヲ知ル
○之ヲ愛スルニ得失アリ、而シテ之ヲ見ル
モ亦然リ、豈ニ輕々ニ看過スベケンヤ○時
勢ノ變遷ハ、其ノ跡多ク書画ニ在リ○此ノ會
ノ如キハ、真ニ世ニ功アル者ト謂フベキナ
リ、

畦夫○儉
夫○野

ヲ作ル所以ナリ、

熟語

○芸
○駿
○龍
○千
○里
○大宛
○典

文ノ味ハ固リ美ナリ、而
シテ其ノ芳ハ詩ニアリ
○礼ハ喻バ則チ其味ナ
リ、樂ハ喻バ則チ其香ナ
リ○其ノ一ヲ取テ、其ノ
ニヲ取ザレバ、豈ニ其ノ
真味ヲ知ル者ト為シヤ
○天下ノ其ノ香ヲ嗅ザ

觀水雷火記

水雷火ハ水中ニ於テ炮火ヲ發スルナリ、蓋
シ海外人ノ發明ニ係ル、輒近此ノ技大ニ行
ハル、者ハ海軍ニ於テ尤モ必需ノ用アル
ヲ以テナリ、何トナレバ、水中ノ戰ヤ必ズ舟
ヲ用フ、而シテ其ノ艦タル或ハ鉄ヲ以テ之
ヲ裝ス、其ノ堅キ容易ニ破ルベカラズ、是ニ
於テカ水雷火ヲ用フレバ、其ノ艦モ亦或ハ
之ヲ破ルヲ得、是レ其ノ必需ノ用アル所以
ニシテ、而シテ其ノ技ノ大ニ行ハル、所以
ナリ、余レ冷茲某月墨水ノ上リニ遊ヒ、偶々

ル者其レ幾クゾヤ

釣鯉説

○英一
ヨキテホント
フコトナリ
庭梧○井
○秋一
○黄一
○潤谿○回
○雲一
○斜一
清一
○圃畦○

余レ嘗テ鯉ヲ釣ントシ
テ餌ヲ某ノ川ニ投ズ終
日ニシテ一尾ヲ獲ズ是
ノ如クスル者数十日終
ニ一ヲ獲ル能ハズ乃チ
退キテ之ヲ思ス曰ク是
レ餌ノ佳ナラザルト器
ノ良ナラザルトニ是レ
由ト乃チ其ノ餌ヲ香バ

此ノ技ヲ演習スルヲ見ルヲ得タリ其ノ技
タルヤ水中ヨリ突然トシテ烟火ヲ發ス其
ノ聲轟々然トシテ雷ノ中沃ニ鳴ルガ如ク
其ノ勢ヒ活潑トシテ雷ノ大木ヲ裂カ如ク
觀者ヲシテ戰々兢々ナラシム其ノ景況モ
亦恐ルベシ嗚呼コレヲ大ニシ以テ之ヲ洋
冲ニ試ミハ蔽天ノ舟モ以テ摧クベク裝鉄
ノ艦モ以テ挫クベシ況ンヤ平々タル風帆
船ノ如キ者ヲ蓋シ聞ク本邦ノ此ノ技ニ
於ル古來或ハ是レアリト然リ而シテ今マ
新ニ之ヲ海外ヨリ傳習スルモ亦以テ世愛

菜畦○野

○一
新一
故一
殊ニ佳
ナリ○絶
佳○甚タ
佳ナリ○
清一○尤
モ佳ナリ
○轉々佳

シクシ其ノ鉤ト其ノ竿
トヲ良シ往キ而シテ釣
ルニ又一モ獲ル所ロナ
シ是ノ如クスル者数十
日終ニ其ノ節ヲ屈シ之
ヲ釣鯉ノ巧ナル者ニ問
ハ曰ク是レ他ノ奇術ア
ルニ非ス心ヲ專ラニシ
テ外慕セザルニ在ルノ
ミト是ニ於テカ專心精
思シ以テ釣ヲ垂レ又數

ヲ見ルベキナリ

熟語

水ノ火ト其ノ激スルモ亦甚ダシ今マ之ヲ
シテ相克ザラシム豈ニ奇ト云ハザルベケ
ンヤ○之ヲ船底ニ中レバ一祭ニシテ穿ツ
ベシ○輓近此ノ技ノ行ナハルヨリ水軍
ノ激烈ナル又甚ダシ○其ノ技ノ巧ナル者
ニ至リテハ之ヲ拒グ者ナシト云フ○海外
ノ人ト雖モ亦尤モ其ノ慘酷ヲ恐ル況ンヤ
其ノ技ヲ熟覽セザル者ニ於テヤ○是レ
猶ホ陸ニ車炮アルガゴトシ其ノ戰ニ必須ナ

ナリケイキ

○青鞋

○芒

吟

○金釵

○玉

鳳

○花

庭階

○午

十日ニシテ一ノ巨鯉ヲ

獲タリ是ヨリシテ目ト

シテ獲ザルハナシ乃チ

頽然トシテ悟テ曰ク世

ノ学ニ志ス者モ亦然リ

朝ニ漢籍ヲ繕キ暮ニ蘭

書ヲ讀ミ今日ハ英書ヲ

学ヒ明日ハ獨若クハ佛

ヲ学バシ終身必ズ得ル

所ナクシテ止ン若シ此

ノ釣鯉ノ術ノ如ク專心

ル推テ知ルベシ○是ニ由テ之ヲ見レハ文

明ノ一步ヲ進ムル者ト云フベシ

有明樓記

墨水ノ上ニ樓アリ有明ト號ス即チ割烹ヲ

以テ業トス凡ソ月ニ花ニ若クハ雪ニ墨水

ノ遊ヲ為ス者ハ此ノ樓ニ登リテ肴ヲ呼ビ

酒ヲ命ジ以テ枵腹ヲ醫シ倦足ヲ憇フ其ノ

地位水ノ東岸ニ在リテ西岸ニ面ス是ニ於

テカ月ヲ觀ト欲スルカ月初メテ登ハ清光

先ツ樓中ニ入り筵席ヲ照シ恰モ不夜城ノ

思ヲ為セリ花ヲ觀ント欲スルカ堤上ノ櫻

○判階

長

○寒

荒

○秋懷

○幽

澹

○悲

○暮

精思シテ外慕ノ心ヲ起

サレバ其レ必ズ獲ル

所アラントス

熟語

終ニ一ヲ獲ル鉄ハザル

モ是レ豈ニ釣魚ニ拙ナ

ランヤ○猶ホ書ヲ学ビ

テ成ズ輒チ去テ文ヲ学

ガニ異ナランヤ○是レ

其ノ心ノ專ラナラズ思

ノ精カラザルナリ○其

花ハ終ニ水ヲ隔テ、正ニ樓ニ向フ之ヲ望

ムニ近ラズト雖モ又甚ダ遠カラズ烟ノ如

ク霞ノ如ク香風時ニ水ヲ渡リ來ル其ノ情

况真ニ擲スベシ雪ヲ觀ント欲スルカ長堤

ノ樹々皆銀花ヲ著ルガ如ク幾ト水天一碧

ノ景状坐シテ觀ルベク卧シテ玩ブベシ是

レ此ノ樓ノ三ノ大觀ナリ而シテ酒ノ濃厚

ナルト肴ノ新舞ナルトハ他樓ノ能ク及ブ

所口ニ非ス是レ豈ニ遊客ノ多ク此ノ樓ニ

登ル所以ニ非ズヤ宜ク以テ有名ト云フベ

クシテ之ヲ有明ト云フ者ハ何ゾヤ蓋シ聞

○吟懷
人曰ク精神一到何事カ
成ザラント其レ此等之
謂ナルカ

愉快記

○雄一
愉快ヲ好ミテ不快ヲ惡
ムハ人ノ常情ナリ何ヲ
愉快ト云フ聴ク所ノ声
耳ニ適ヒ視ル所ノ色目
ニ適ヒ嗅グ所ノ香鼻ニ
適ヒ食フ所ノ味口ニ適
ヒ四体ノ欲スル所口一
蕭一寒

熟語

ク遊客ノ此ノ樓ニ登ルヤ必ラス帰ルヲ志
レ五更既ニ尽ントスルニ及ベリ故ニ常ニ
樓上ニ明燭ヲ點セリ是ニ於テ有明ノ名ア
リト或ハ曰ク邦俗曉ヲ謂テ有明ト云フ故
ニ此ノ名アリト其ノ執力是ナルヲ知ラズ
ト雖共ニ遊客ノ意々シテ帰ヲ忘レ曉ニ
至ニ取ト云フ豈ニ墨水第一ノ樓ニ非ズヤ
有明樓ノ記ヲ作ル

酒アル准ノ如ク肴アル山ノ如キモ花月ナ
クンバ何ヲ以テカ興ヲ遣ンヤ○花ニ於ハ

一○茅一
トシテ適ハガルナキ是

○静一
ヲ之レ愉快ト謂フナリ

然ト雖是レ直ニ身ノ

愉快ノ心ノ愉快ニ非

ルナリ何ヲ心ノ愉快ト

謂フ曰ク惡ヲ惡ムト惡

臭ノ如クナレバ心則チ

愉快ナリ善ヲ好ムト好

色ノ如クナレバ心則チ

愉快ナリ心ニシテ苟ク

モ愉快ナラザレバ則チ

墨堤ノ櫻花ヲ望ミ月ニ於テシ雪ニ於テモ

一瞬千里ノ思アリ○凡ソ此ノ樓ニ登ル者

ハ夜ヲ陪スルヲ以テ常ト為ス○樓下ハ則

チ墨水ノ清流浩々トシテ遊船漁舟南北ニ

泛々タリ○樓前ノ櫻花ハ紅雲ノ長堤ヲ籠

ルガ如ク○開鷗ノ沙上ニ眠ルハ春ノ深ヲ

忘ルガ如ク○遊客ノ帰ルヲ忘ルモ亦

宜ナラズヤ

遊泉岳寺弔義士墓記

泉岳寺ハ品海ノ上ニ在リ寺中ニ赤城義士
墳墓アルヲ以テ其名特ニ東京ニ見ハル

○香一○ 身ノ愉快ト為ス所以ノ者モ亦必ズ不快ニ歸ス。紅一ヲ為ス。○玉堆ヲ為ス。○大ノミタテニ用ユ。落葉堆カシ。○黄葉一ヲ為ス。○アキノケイシヨクニミチテ。玉杯。○瓊一。○緑杯。

身ノ愉快ト為ス所以ノ者モ亦必ズ不快ニ歸ス。然ハ則チ愉快ノ本ハ心ニ在テ身ニ在ズ是ノ故ニ君子ハ心ノ愉快ヲ先ニシテ四体ノ愉快ヲ後ニス。是ニ於テカ心常ニ愉快ニシテ終身モ身ノ愉快ヲ失ナハズ而シテ小人ハ之ニ反ス嗚呼悲ムベキカ大。

故ニ海上ノ一小寺ト雖モ行客常ニ跡ヲ絶ス豈ニ其ノ忠義ノ節ヲ慕フテ然ルヲ羨スカ余レ一日杖ヲ曳テ寺ヲ訪ヒ香花ヲ義士ノ墓ニ奉ル墓上ニ至レバ苔色蒼然トシテ萬古不変ノ色ヲ見ハシ茂林蔚然トシテ千歳獨秀ノ景況ヲ呈セリ況ンヤ四十七士ノ石碑ハ纂々トシテ主君ノ碑側ニ環列シ忠義ノ節操ヲ帶アルニ於テヲヤ風声モ之ガ為ニ節烈ノ氣ヲ含ム鳥語モ之ガ為ニ忠憤ノ音ヲ帶リ況ンヤ人ニシテ此ノ境ニ入ル者誰カ忠勇憤排ノ心ヲ動サランヤ余レ

○鷺杯

○鸚鵡杯

○鳳凰

○香一

○カウキ

○傾ク

○一ヲ擧

○一ヲ

○捧グ

○一ヲ

熟語

常ニ愉快ヲ欲シテ愉快ヲ得ガル者ハ何ゾヤ○心益々愉快ナラズシテ身ノ愉快モ亦隨ヒテ亡ズ○君子ノ愉快トスル所ハ小人ノ愉快ト為サル所ナリ○小人ハ心ノ快否ヲ願ミズ故ニ常ニ愉快ヲ得ル能ハザルナリ

熟語

来ル會々某氏ノ寺中ニ来リテ義士ノ行状ヲ説話シ人ヲシテ縦聴セシムルニ遇フ余モ亦席末ニ在テ其ノ一話ヲ聞々覺ヘズ感涙衣ヲ濕フセリ嗚呼義士ノ拳ヤ小ト雖モ其ノ節ノ高ハ以テ天ニ冲ルベク其ノ大ナルヤ以テ萬世ニ振フニ足レリ宜ナルカナ今ニ至リテ人ヲ感動スルノ深キ晩近會社ヲ結ビ義士ノ曾テ有スル所ノ器物ヲ保護スル一ヲ謀ルト亦美舉ト云フベシ因テ記ヲ作り併テ此ノ事ニ及ブト云ルス

慣習説

ムライ ○面
ク開ク ○
細々一ク
○滿枝一
ク ○一枝
一ク ○雨
ヲ帶テ一
ク ○欄ヲ
擁シテ一
ク ○牆ヲ
歴シテ一

絶壁ヲ攀チ懸崖ヲ踏テ
目ノ眩スルハ乃チ人ノ
通情ナリ而シテ山ニ居
ノ民ハ眩ゼザルナリ狂
濤ヲ涉リ驚瀾ヲ歴テ心
ニ懾ルモ亦人ノ通情ナ
リ而シテ海ニ住ノ民ハ
悞ザルナリ夫レ絶壁懸
崖其ノ勢ヒ天ヲ衝キ且
ツ將ニ顛ラントス之ヲ

寺ハ小ナリト雖名ハ則チ高シ○甚ダシ
忠義ノ節ノ人ヲ感スルヤ○聞ク信夫先生
ノ来リテ講説ヲ此ノ地ニ開ケリト○其ノ
人ヲ愛スルノ深キニ至リテハ其ノ嘗テ弄
スル野ノ器ヲ見ルモ猶ホ其ノ人ニ逢ガ如
シト○誰カ義士ノ節義ニ感ゼザルモノア
ラン○况ンヤ其ノ器ノ儼然トシテ今日ニ
傳ハルニ於テヤ○今ヲ距ル既ニ二百年
ニ餘ルモ猶ホ其ノ時ニ在テ親シク之ヲ見
ルガゴトシ○忠勇義烈ノ人ヲ感スル殆ト
王化ニ齊キ者アリ

クハナノヒエキ
シフイフ

○寒ヲ犯

シテ開ク

○雪ヲ帶

テ一ク

雪ニ向テ

一ク

○断

猿哀シ

胡角哀シ

○野鶴哀

見テ何為レガ眩セザル

狂濤驚瀾其ノ勢ヒ地ヲ

捲キ且ツ將ニ倒シトス

之ニ遇テ何為レガ悞ザ

ルヤ是レ他ナシ其ノ慣

習之ヲシテ然シムルナ

リ故ニ習テ之ニ熟スレ

巴山海ノ險モ猶ホ遠視

スベシ況シヤ事ノ人情

ニ近キ者ヲヤ然リ而シ

テ世ノ学ヲ者ノ致々勉

熟語

品海拾貝記

今茲晩春某ノ日余レ偶々事ナク机ニ憑テ
詩ヲ哦ス忽チ柴門ヲ叩ク者アリ出テ之ヲ
迎フレバ即チ友人某教輩ナリ其ノ来意ヲ
問バ曰ク品海ニ於チ拾貝ノ遊ヲ為サント
スルナリト乃チ伴ナヒ行バ恰モ好シ潮既
ニ退イテ海面一滴ノ氷ヲ多恰モ是レ平地
ノ如シ乃チ各自三竹籠ヲ提ヘ海沙ヲ踏ミ
テ行一凡ソ三百餘歩ニシテ蛤蚌ノ属沙上
ニ散乱シ恰カモ是レ落穂ノ地上ニ鋪カ如

○翠一○碧
○秀一○清
○奇一
○天一○手
○茂才
○逸一○清
○秀一○清
○奇一
○天一○手
○茂才
○逸一○清

強シテ其ノ学ヲ所ノ事
終ニ其ノ志ニ克ル能ハ
ザル者ハ果シテ何ゾヤ
豈ニ慣習ノ未ダ熟セザ
ルヲ以テスルニ非ズヤ
嗚呼慣習シテ自得スレ
バ絶壁モ以テ攀ツベク
狂濤モ以テ渉ルベシ天
下ノ事何ゾ為スベカラ
ザルノ之アラシ況ヤ君
子ノ行ヲ所ノ者於テヤ

夕左ニ拾ヒ右ニ取リ彼ニ擲リ此ニ探リ忽
チニシテ盤ニ盈テリ乃チ懸一懸シテ亦歩
スル一十餘歩ニシテ潮アリ厓ニ及ブ其ノ
清キ一水ノ如ク以テ水底ヲ見ルベシ小魚
アリ藻中ニ潜伏ス乃チ小鰈ヲ以テ之ヲ刺
スニ一トシテ得ザルハナシ或ハ手ヲ以テ
之ヲ捕フルモ亦獲ザルハナシ其ノ樂ミ亦
比スベキ者ナシ况ヤ此ノ日ノ晴色湛然ト
シテ一點ノ雲ナク片陣ノ風ナク暖和ノ氣
人ヲ薰ジテ身ノ海中ニ在ルヲ忘レシムル
ヲヤ乃チ岸ニ登リ酒ヲ呼ビ獲ル所ノ魚貝

自ラ裁ユ
○移シ一
○分チ
○新
○真カ幻
○幻
○真○夢
○裏ノ真

其ノ考フルヤ冷ネク其
ノ思フヤ精シ○彼レ之
ヲ善シテ我レ之ヲ善セ
ザル者ハ何ゾヤ○之ヲ
要スルニ習フト習ハザ
ルトノ間ニ在ルノミ○
小人ノ巧ニ惡ヲ為スモ
亦其ノ之ニ習フニ在ル
ノミ

有トシ額然トシテ醉ニ就キ聊サカ手足
ノ勞ヲ醫シ薄暮家ニ歸リ燈下ニ於テ之カ
記ヲ作り以テ同行者ニ示スト云示ス
拾貝ノ遊タル晩春ノ上流ヲ以テ最上ノ候
ト為ス○或ハ紅裙ノ隊ヲ為ス者アリ亦春
日ノ佳遊ト云フベシ○蛤蚌ノ大ナル者ハ
多クハ沙中ニ在テ容易ニ得ベカラズト雖
正○其ノ平行ナル丁恰カモ原野ノ如ク○
魚婢ノ藻裡ニ在ル者ヲ得ルハ罾ニ如ハナ
シ○其ノ活澹ノ形真ニ見ルベキナリ○貝

ニワカラヌ ○
宿因 ○ 舊
一 ○ 縁
前 ○ 一
○ 前
○ 文
○ 香
○ 最

芳茵 ○ 華
○ 錦
○ 文
○ 香
○ 最

扇ノ制タルヤ其ノ本ヲ
強クシテ其ノ末ヲ弱ク
シ其ノ本ヲ堅固ニシテ
其ノ末ヲ薄弱ニシテ其
末ヲシテ合ヒ且ツ干サ
バラシム而シテ其ノ本
ニ轄ス然ル後ニ操テ之
ヲ煽ス以テ風ヲ起スベ
ク以テ涼ヲ生ズベク以
テ物ヲ動搖スベシ之ヲ
古ノ政治ニ喩アレバ徳

古ノ政治ニ喩アレバ徳

○ 最
○ 花
○ 辰
○ 陽
○ 抑
○ 青
○ 人
○ 花

川氏ノ如キ天下ノ諸侯
ヲ削弱シ諸侯ヲシテ合
從連衡セザラシムル者
ハ是レ扇ノ其ノ末ヲ弱
シテ相合ヒ相干サミラ
シムルニ非ズヤ已レ天
子ヲ擁シ祖先ノ宗國ニ
磐據シ以テ天下ニ號令
スル者ハ是レ扇ノ其ノ
本ヲ強シテ之ニ轄スル
者ニ非ズヤ故ニ能ク天

ヲ燒キ之ヲ食フニ其ノ味甚ダ美ニシテ亦
比スバキ者ナシ ○ 之ヲ拾フノ易キハ莫ニ
謂フ所ノ茶ヲ拾フガ如キ者カ ○ 一ハ以テ
眺望ノ佳ナルアリ一ハ以テ漁獵ノ興アリ
豈ニ樂カラズト謂ンヤ

○ 甘棠書屋記
國家ノ治ハ縣治ニ先ナルハナシ縣治ノ要
ハ刑政ニ重キハナシ是ノ故ニ才アリ學ア
リ古今ニ通曉スル者ニ非ザレバ則チ一縣
ノ人民往々其ノ害ヲ蒙ル今ノ縣令タル者
ヲ觀ルニ率ネ伶俚ニシテ才幹アリ其ノ錢

穀ヲ理メ賦役ヲ課スル敏捷ニシテ善ク
辨ズ能ト謂フベシ然レモ刑政ニ至リテハ
或ハ其ノ當ヲ得ザル者アルニ似タリ是レ
其ノ故何ゾヤ蓋シ才アリテ或ハ學ニ乏ク
今ニ通テ或ハ古ニ達セザルニ由カ余ガ友
某君學ヲ好テ古ニ通ジ最モ刑獄ヲ重ンズ
其ノ縣官ニ任ズルヤ日ニ書ヲ讀ミ詩ノ并
棠ノ篇ニ至リ嘆ジテ曰ク甚シヒカナ召公
ノ德タル其ノ人ヲ思テ其ノ樹ヲ愛ス余レ
及ガ能ハズト雖モ心ニ慕ト乃チ其ノ讀書
ノ屋ニ命ズルニ耳棠ヲ以テシ我ニ命シテ

上

三十一

咏エイズルルト

○香カウヲヲ趁チン

フ人ヒトヲヲ相サウ

トト云クニ○相サウ

鄰リンス○鄰リン

ヲ結ムスブ○

北ホク○東トウ

○東トウ

連レンス○

○鄰リン

トス○鄰リン

下ノ諸侯ニ憐怖屏息シ

テ敢テ動かカザラシム若

シ夫ノ足利氏ノ如キハ

則チ之ニ反ス故ニ已レ

上將ニ位スト雖也其ノ

兵力ヲ問バ則チ彼ヲ歴

スル能ハズ已レ號令ヲ

出スト雖也天下敢テ之

ニ服從屈伏スル者アラ

ハ是レ猶ホ扇ニシテ物

ヲ動揺スル能ハザルガ

記ヲ作ラシム我乃チ曰ク嗚呼君モ亦深ク

刑政ノ重ンガベキヲ知ル故ニ召公ノ慕ベ

キヲ知ルナリ然リト雖也名テ慕ハ易ク実

ヲ踏ハ則チ難シ若シ君ニ徒召公ヲ慕フテ

其ノ實ヲ踏ム能ハザラシムレバ則チ獨リ

他人ノ笑フ所ト為ノミナラズシテ亦將ニ

其棠ノ笑フ所ト為ントス勉メザルベケン

ヤ之ヲ記ト為ス

熟語

是ノ故ニ政府ノ縣治ニ於ル最モ注意ヲ加
フ○苟モ縣治ニシテ其ノ宜トヲ失ハバ終

ゴトシ噫

熟語

ヲ擇エラフハトナ
エラフコト
ヲイフナリ
紅塵コウジンヲ漲チヤウ
ラズ○香カウ
塵ジンヲ翻ヒガヘ
ス○烟塵エンジン
○緑リキ○
芳ホウ○
○春ハルヲ
探サツル○春ハル
ヲ尋タマヌ○

ニハ國家ノ得失ニ関スルニ至ル○其ノ人

ト為リ敏給ニシテ善ク辨ズ能ト謂フベシ

○属官ハ職タル卑シト雖也上ハ縣令ニ接

シ下ハ萬民ニ交ハル○假令獨決セシムル

モ亦必ズ能ク為スナシ○オアル者ハ或

ハ學問アルナク學問アル者ハ或ハオアル

能ハズ○是ニ於テカ學問ノ果シテ大ニ政

治ニ用アリト為スヲ知ル○異日ノ成功ア

ル者ハ必ズ他人ニ非ズシテ足下ナルヲ期

ス○足下ノ知キハ善ク古人ヲ慕フト云フ

ベシ

春ヲ美ス
○春ニ酔
フ○春ヲ
搜ス
送ル○
ヲ惜ム○
一ニ餞ス
○一ヲ買

喫阿片說

ノ其ノ本ヲ弱シ、其ノ未
ヲ強スル者、豈ニ獨リ是
レノミナランヤ、
阿片ヲ喫スルハ、其レ猶
ホ河豚ヲ食フガゴトキ
カ河豚ノ毒アルハ、天下
ノ人皆能ク之ヲ知り、皆
能ク之ヲ言フ、然レモ其
ノ之ヲ食フニ及ンデハ、
其ノ味ノ美ナルヲ喜ビ

縦覧第二勸業博覽會記

今茲三月一日ヲ以テ、再ビ内國勸業博覽會
ヲ上野公園地内ニ開リ、其ノ規模ノ宏大ナ
ルハ、之ヲ前會ニ比較スルニ、真ニ其ノ右ニ
出ルト謂フベシ、余が見ル所ノ一二ヲ以テ
之ヲ云フニ、前ノ日數ハ一百二日ニシテ、此
ハ則チ一百二十二日ナリ、前ニハ七館ニシ
テ、此ハ則チ十二館ナリ、其ノ出品ノ多キハ、
是ニ由テ推テ知ルベシ、余ノ縦覧スルハ、先
ヅ前門ヨリ入リ、第一本館ト第二本館ト見
テ、礦業及ビ冶金術ヨリ諸ノ製造品ヲ陳列

フ○春ヲ
生ズ
○残一
暮一○晚
一○芳一○
烟一○楊
柳ノ一○
落花ノ一
ハルノワタシ
角巾○野

其ノ終ニ害アルヲ忘ル
獨リ害アルノミナラズ、
終ニ其ノ身ヲ殺スニ至
ル而シテ天下ノ人終ニ
之ヲ禁ジテ食フナキ能
ハザル者ハ何ゾヤ、終身
コレヲ食テ終身其ノ毒
ニ中ラザル者時ニ或ハ
之アルヲ以テナリ、阿片
ノ毒ニ至リテ時ニ或ハ
免カル、能ハズ其ノ毒

スルヲ見、其ノ術ノ巧ナルト、其ノ品ノ精キ
ニ驚キ、嘆一嘆シテ看過シ、乃チ中門ニ入リ
藝園館ニ至リ、草木花卉及ビ培養ノ法ヨリ
庭園ノ裝置ヲ見テ、其ノ奇態異状ニ驚キ、賞
一賞シテ經過シ、乃チ第四第一第二ノ農業
館ニ入リ、農業一切ノ産物器械肥料等ヲ熟
覽シ、其ノ注意ノ精細ナルヲ驚嘆シ、美術館
ニ至リ、彫鏤ノ巧緻ナルヲ刻ノ鮮明ナルヲ書
画ノ精妙ナルヲ其ノ外百工ノ圖案ヲ見テ、美
術ノ名ノ空カラザルヲ信ジ、技術ノ古ヘニ
百倍ナルヲ想ヒ、第五ノ本館ヲ過キ、動物館

巾○輕

イシヤノ
ツキソライフ

上古ノ民

○葛天氏

ノ民○無

懷ノ民○

巢居ノ民

○絳脣○

朱○丹

○香

ハナヒラノケイ
ヤウニ用フ

○朱輪○

香○瓊

○画

○繡

珠○雕

○草色

○春

○報

○花

モ亦甚シ懼ガルベケン
ヤ、之カ説ヲ作ル、

熟語

其ノ味ハ甚タ其美ト雖
氏、其ノ毒ノ深カラザル
ニ孰レ○其ノ味ハ甚ダ
美ナラズト雖氏毒ナキ
ノ愈ルニ如ズ○常鱗凡
介ノ毒ナキ者ヲ擇ヒ之
ヲ食フニ如ズ○何ソ必
カシム阿片ヲ是レ嗜ン

作文説

夫レ文章ヲ作ルハ猶ホ
大將ノ兵ヲ用ルガゴト
キカ百字ノ文ヲ作ルハ
百人ノ兵ヲ用フルガ如
ク千萬字ノ文ヲ作ルハ
千萬人ノ兵ヲ用フルガ
如シ法ニ非ザレバ用フ
ベカラズト雖氏之ヲ用
フル又法ニ拘ルベカラ

ヲ一覽シ第三ノ農業館ヲ經過シ第二第一

ノ機械館ニ至リ諸品製造機械ヨリ水力風

力等ノ發動機械ノ運轉スルヲ見テ其ノ奇

々怪々ニシテ名状スベカラザルニ驚駭シ

人智開發ノ真ニ造化ノ工ヲ奪ヲ知り聞見

ノ博ラザルベカラズ交際ノ廣ラザルベカ

ラザルヲ信シ庭上ノ噴水器養魚池五角堂

六窓庵等ヲ見テ又中門ヲ出テ最モ後ニ第

四第二ノ本館ニ至リ又三三一本館ノ同窓

ヲ起シ終ニ歸途ニ就リ嗚呼余ノ如キ不才

無学ト雖氏此ノ場中ニ入ヤ此ノ如キノ嘆

ヲ起シ智覺ヲシテ教歩ヲ進ルガ如クナラ

シム況ンヤ其ノ嘗テ学ブ所アル人ニ於

テ如何ゾ感嘆ノ心ヲ生ゼザランヤ是レ勸

業ノ勸業タル所以ニシテ國家ノ二日モ無

ルベカラザルヤ必セリ乃チ之カ記ヲ作ル

熟語

陶器ハ陶器ト列ヲ與ニシ漆器ハ漆器ト行
ヲ連ヌ○各々其ノ類ヲ以テ排列ス故ニ其
ノ善惡一覽シテ了然ナルヲ得○縦ニ之ヲ
觀レバ三府三十八縣ノ出品ヲ比較スルヲ
得テ横ニ之ヲ觀レバ一府一縣ノ出品ヲ詳

籬句シハル
イシヨク
二用ユ
○籬
ヲ隔テ聞
ク○枕ヲ
歌テ、聞
ク○仔細
ニーク○
静夜ニ
ク○岸ヲ
隔テーク
○醉中ニ

ズ法ニ拘レバ已ノ意ヲ
開発スベカラズシテ文
氣頓萎シ法ヲ用ヒザレ
ハ章句ノ間行文ノ際必
ズ支離ノ病ヲ生ジ已ノ
意モ亦隨ヒテ達スルヲ
得ズ抑々其ノ用捨ノ機
ハ只余ノ方寸中ニ在ル
ノミ夫レ前駆後勁左廣
右拒闔陣東伍シテ其ノ
旌戟ヲ列ル者ハ是レ文

悉スルヲ得ル○他人猶ホ益アリ況ニ其
ノ業ヲ修ムル者ニ於テヲヤ

紀事門

紀日下部伊三次事

日下部信政ハ伊三次ト稱ス薩州ノ落士ナ
リ其ノ勅書ヲ要請スルニ坐セラル、ヤ獄
吏伊三次ヲ掠治スル一、至ラザル所ロナシ
伊三治慨然トシテ曰ク僕ノ如キハ陪隸ノ
賤臣ノ、然レモ尚ホ國家ノ大事ニ臨ミテ
ハ性命ヲ吝マズ諸君ハ幕府旗下ノ士ナリ
獨リ外夷ノ四ニ逼リ祖宗ノ天下ノ日ニ危

聞ク スハテコ
二用
フベシ ○声
一○名
ヒヨカパン
ヲイフ ○
煖雲○香
一○緑
ハルノシモ
ヲイフナリ ○
火雲○早
一○濕
ナランクモヲ
イフナリ ○
秋一○秋

ノ正ナリ而シテ之ニ反
スル者ハ則チ變ナリ伏
兵疑兵首尾共ニ起リ一
從一橫百千萬騎跳躍シ
テ出デ人其ノ端倪ヲ知
ル能ハズ而シテ之ヲ魔
ネケバ則チ陣伍整列シ
テ萬馬聲ヲ收ムル者ハ
是レ則チ文ノ爽ナリ余
レ故ニ曰ク作文ノ法ハ
其レ猶ホ大将ノ兵ヲ用

七ニ瀕スルヲ願ミザルカ僕ハ諸君ト言フ
欲セズ若シ閣老列坐シ僕ヲ召シ事ヲ問ハ
則チ飽テ誠衷ヲ吐ト吏拷劾百方ニスレモ
伊三次泰然トシテ井ンシ受ケ敢テ一言セ
ズ吏モ之ヲ如何トモスルナク改メテ其ノ
藩ニ保管ス遂ニ風疾ニ感ジテ死ス

熟語

人トナリ甚清自常ニ慨然トシテ王室ノ陵
遲シ幕府ノ強大ナルヲ憤ホリ○死スル後
ニ其ノ屍ヲ檢スルニ兩膝殆ト完膚ナシ
紀寛永三輔車

一〇断一
アキクモラ
イフナリ

フルガ如シト豈ニ誣ル
ト云フヤ

凍一〇寒

熟語

酒井忠世土井利勝青山忠俊之ヲ寛永ノ三
輔ト謂フ初メ徳川家康公三臣ヲ召テ世子
家光公ヲ属シテ曰ク忠世汝ハ仁ヲ以テ之
ヲ輔ヨ利勝汝ハ智ヲ以テ之ヲ濟ヘ忠俊汝
ハ勇ヲ以テ之ヲ勵セ三人心ヲ協テ之ヲ輔
導セバ我レ其ノ明主トナラザルヲ憂ヘズ
天賦ノ同ジカラザルハ豈ニ世子ノ稟ノ將
軍ノ如シト曰ンヤ之ヲ譬レバ我ハ寅年ニ
シテ金性ナリ將軍ハ卯年ニシテ土性ナリ
而シテ世子ハ則チ辰年ニシテ火性ナリ世
子ヲシテ土性ナラシムル能ハザルハ猶ホ

一〇霜一

其ノ古法ニ合フ者ハ英
雄ノ文ナリ〇古法ニ拘

ニ耕ス〇

泥スレバ優孟ノ衣冠ナ
リ〇奇正互ニ用テ自ラ

一ニ眠ル

テ良將タルト云フベシ

〇一ニ臥

〇人ヲシテ其ノ端倪ヲ
知ルナカラシム〇此ノ

ス〇一ニ

法ニ合スル者ハ文ニ於

棲ム〇山中

ノ萬物ヲ造ルガコトク
其ノ物ニ隨ツテ必ズ称

人ナドノ

物必有其称説

心ヲイフ

如クナレバ何ゾ必ズシ
モ古法ヲ襲フヲ為ソ

ニ三分〇

九分既ニ

赤ダ十分

エノ物ヲ作ルハ猶ホ天

ナラズ〇

ノ萬物ヲ造ルガコトク

三分ヲ過

フ所アリ嘗テ之ヲ筆ニ

〇旦既

見テ其ノ一端ヲ知テ得

ニ十分

タリ筆ノ毛タルヤ其ノ

〇終々〇

類ニアリ粗ナリ密ナリ

〇終々〇

而シテ粗ナル者ハ勁ニ

〇終々〇

以ノ者實ニ三輔ノ功多ニ居ルト云フ

〇終々〇

熟語

○紅裙○
輕裾○羅

○紫○

○珠○

翠○
ノナドヲ

○離群

○一ニ冠

○逸

○絶

○扱

○一ニ超

シテ密ナル者ハ柔ナリ
人ノ書ニ於ル杖字ヲ作
ラント欲スシバ必ス筆
ノ大ナル者ヲ要ス而メ
筆ノ大ナル者ハ其ノ毛
必ス粗ニシテ勁ナル者
ヲ用ス是ニ於テ筆ト字
ト其ノ稱ヲ呼ヲ得若シ
夫ノ細字ヲ書セント欲
スレバ筆ノ小ナル者ヲ
求ム而シテ筆ノ小ナル

其ノ心ノ明カナルハ明鏡モ以テ此スル
ニ足ラズ○政ニ私曲ナキ所以ノ者ハ左右
輔導ノ臣ノ其ノ道ヲ得ルニ由ル○嗚呼謀
ノ朝ノ何ゾ良臣多キヤ其ノ隆盛ヲ致スモ
亦宜ナラズヤ○某等ノ政府ニ於ル和シテ
同セザル者ト謂フベシ○見ル所ハ各々異
ナリト雖モ其ノ歸著スル所ニ至リテハ則
チ同シ○外間ヨリ之ヲ見レバ阿黨スルニ
似タル者アリ其ノ實ヲ考フレバ則チ然ラ
ズ豈ニ忠臣ナラズヤ

紀僧月性行狀

人ニスグル人
ヲイフナリ

○六軍○

三○一

一○偏

○全

○軍ヲ統

○一ヲ麾

○一

○臨

○一

○一

者ハ其ノ毛必ス密ニシ
テ柔ナル者ヲ用ス是ニ
於テカソノ用恰モ相合
ス是レ獨リ天ノ然ラシ
ムルニ非ズ工ノ之ヲ擇
ブニ在ルノミ若シ之ニ
及シ巨筆ヲ以テ細字ヲ
書シ細筆ヲ以テ大字ヲ
作レバ之ヲ書スル必ス
意ノ如クナラズト雖モ
是筆ト工トノ罪ニ非ズ

月性ハ周防ノ人ナリ清狂ト號ス常ニ外冠
ヲ以テ憂ト為シ小技ヲ以テ著ルヲ屑ト
セズ或ハ之ヲ嘲リテ曰ク髡ヲ以テ當世ノ
事ヲ談ス狂ノ甚シキ者ニ非ズヤト月性ノ
曰ク吾レ自ラ清狂ト号ス何ゾ汝ガ輩ノ吠
怪ヲ願ミンヤ願フニ舉世大憂ヲ忘レ首ヲ
淫シ尾ヲ掉ヒ士名ニシテ游行ナル者ハ吾
レ深ク之ヲ纏トス且ツ濁ニシテ憑ナルト
清ニシテ狂ナルト孰カ得孰カ失ナルト更
ニ人言ヲ頗ミズ常ニ潤凍ノ偷安ヲ慨ゲキ
竊ニ討幕ノ議ヲ主張ス月性容貌魁梧ニシ

○元勳 ○功 ○洪 ○舊

シテ之ヲ用ル者人ノ
称ヲ野ヲ失ナフノミ

熟語

○平 ○泉 ○曠野 ○郊原 ○廣 ○夕曛 ○斜 ○源 ○水

其ノ意ニ称ハザル野以
ンノ者ハ何ゾヤ ○大ヲ
以テ小ニ代ス安ンゾ其
ノ意ノ如ク得ンヤ ○以
テ細字ニ用フベクシテ
之ヲ大字ニ用フレバナ
リ ○豈ニ尽クソノ意ニ
称フヲ得ンヤ

テ性酒ヲ嗜ミ數百金ヲ揮霍スルモ更ニ以
テ意ニ介セズソノ人ト論議スルヤ直遂シ
テ更ニ願ミス嘗テ其ノ國老ノ郷ニ在テ酒
ヲ飲ミ語次ニ之ニ謂テ曰久君ノ家ハ太
宏シ何ゾ第ヲ毀チ以テ演武ノ場ト為サ
ルト其ノ直遂ナル此ノ如シ常ニ醉バ則チ
他客ノ劍ヲ取リテ掀舞豪吟シ旁ニ人ナキ
ガ若シ或ハ其ノ意ニ逆バ則チ怒發シテ制
スベカラズ然レ厄義ニ趨ク下渴スルガ如
ク善ミテ人ノ冤ヲ洗フ故ニ賢者ハ之ヲ愛
シ衆人ハ之ヲ安ンズ而シテ未ダ其ノ平生

○河源 ○川 ○園 ○鈕 ○灌 ○掃

智巧不可恃說

○夜猿 ○愁 ○寒 ○斷

智巧ノ恃ムニ足サルモ
亦久シ而シテ天下ノ人
智巧ヲ恃ミ終ニ其ノ身
ヲ殺シ其ノ家ヲ亡ス者
モ亦多シ其ノ故何ゾヤ
智巧ヲ恃メハ其ノ智必
ス偏スル所アリ偏スル
所アルガ故ニ其ノ智モ
亦及バザル野アリ是レ
其ノ害ヲ被ムル野以テ

ヲ悉ク知ザル者ハ之ヲ譏ル府テ死ス年四十
ニト云フ

熟語

人皆嘆シテ曰久方外ノ人ニシテ把扈
ク此ノ如シト ○肉食ノ人ニシテ天下ノ大
憂ヲ忘ル豈ニ自ラ慚サランヤ ○蓋シ其ノ
至誠以テ人ヲ動スニ足ル者アレバナリ ○
余ニシテ志ヲ得セシメハ獨リ閑藩ノ為ナ
ルノミナラズ將ニ大ニ天下ヲ利スル所ノ
者アラントスト ○朝家ノ為ニ外患ヲ除カ
サルヲ實ニ終天ノ恨ト為ト ○其ノ非計

哀イ一イ今夫イ淮イハ鳥ノ小ニ

破垣ハ○シテ且ツ黠ナル者ナリ

類イ一イ古コ故ニ食ヲ望ミ見テ敢テ

○苔イ一イ下ラズ其ノ心ニ曰ン是

○鮮イ一イレ或ハ我ヲ誘スルナラ

○晴イ一イト、既ニシテ鴉ノ来リ

喧イ○氣イ一イ啄バムヲ見レバ則チ下

○春イ一イリテ之ヲ啄バム、是他ナ

○微イ一イシ鴉ノ多智ニシテ善ク

驟イニ喧イカ利ニ就キ害ヲ避ルヲ知

日イ、アタ、カレバナリ是ニ於テカ雀

ナルヲイフ

ヲ駁スル者アルモ更ニ聽ズ

○紀尾疾逸事

尾疾吉通公祖父二世ノ後ヲ承ケ府庫空蕩

國用殆シト支ヘズ有司相議シ歩卒ノ老廢

シテ用フベカラザル者二百餘人ヲ沙汰シ

テ之ヲ放火公之ヲ聞キ有司ニ論シテ曰ク

供給ノ足ラザルニ由テ老卒ヲ放毛理ナシ

ト為サズ然リト雖凡彼レ皆ナ少壯ニ筋骨

ヲ勞シ老テ棄ラル、何ゾ其ノ悲シキ寡人

六十萬ノ封土ヲ以テ群下ヲ養フ能ハズ彼

レ二百人ト雖凡妻孥ヲ并セテ應ニ教百人

○鳥雀喧

シ○燕イ子イ

喧イシ○鶯イ

語イ一イシ○

鶺鴒イ一イシ

○寬イヲ稱イ

ス○一イヲ

訟イフ○一イ

ト呼イフツ

ルイヲイフ

上

ヲ捕イフル者鴉イヲ以イテ謀イ

ト為イシ密ニ網イヲ其ノ傍イ

ラニ張イリ粟米イヲ散イ乱イス

群雀イ之ヲ望イミ見テ相告イ

テ曰ク鴉イ子既ニ来イリ啄イ

メリ何イカ害セシト乃チ

先イヲ争イヒ来イリ啄イメバ網イ

忽イチ其ノ身イヲ掩イテ鳴イ啼イ

其ノ智巧イヲ恃イミ終イ

ニ其ノ身イヲ亡イス亦笑イフ

ベキナリ夫レ此ノ雀イノ

ニ下ラザルベシ乃チ道路ニ窮餓シ進テハ

カニ食ム能ハズ退ヒテハ寸禄ナシ溝壑ニ

轉死セズシテ何ヲカ為シ抑歩卒ノ筋骨ヲ

勞スルハ常事ノミ諸ヲ戸ノ鶺鴒居鶺鴒居

フレバ鶺鴒ハ上ニ居テ勞セス鶺鴒ハ每ニ下ニ

勞ス然レ凡鶺鴒ノ勞ヲ以テ鶺鴒ノ逸スルヲ望

ムベカサズ夫レ歩卒モ亦戸ト鶺鴒居ナリ勞

ハ固ヨリ其ノ職ナリ特ニ其ノ老ルヲ以テ

ノ故ニ之ヲ棄ベカラズト有司皆感泣シテ

還イシ故ニ復セ

シト豈ニ仁アリト謂ハサルベケンヤ

如キ者亦衆シ戒ムベシ

熟語

- 清規 ○ 冷 ○ 氷
- 朱門 ○ 高 ○ 青樓
- 芳 ○ 綠 ○ 清
- 陶 ○ 瓦罇 ○ 瓊

其ノ智巧ノ恃ムニ足ラ
 ガル豈ニ獨リ禽獸ノミ
 ナランヤ ○ 既ニ一黠ノ
 慾心アレバ智巧モ亦恃
 ムニタラサルナリ ○ 自
 ラ以テ智巧ト為テ食ノ
 為ニ其ノ手足ヲ繫ル者
 ハ天下皆然リ ○ 自ラ禍
 機ヲ蹈テ悟ズ豈ニ哀ム

熟語

老卒モ亦或ハ棄ツベカラザル者アリ如何
 バ其レ之ヲ廢セン ○ 有司ヨリ之ヲ言ハ
 兵ト稱シ軍人ヨリ之ヲ謂バ老ルト雖兵
 ハ則チ兵ナリト ○ 出納ノ各ナルハ有司ノ
 常態ト云フト雖臣 ○ 君ハ譬ハ則チ天ナリ
 兵卒ハ譬ハ則チ地上ノ草木ナリ ○ 君ニ貴
 バ所ハ惠ヲ行ツテ財ヲ費サミルナリ ○ 君
 子ノ惠ヲ行フヤ財ヲ傷ラズ民ヲ害セズ ○
 其ノ力役ヲ嫌ハミ兵ト為ラザルニ如カバ

- 山村
- 孤
- 遠
- 荒
- 半
- 輿
- 烟樹香
- 半嶺
- 寺

ベキニ非ズヤ

剛柔論

何ヲ剛ト謂フ物ニ於ハ
 金石人ニ於ハ蹇諤ノ臣
 ナリ何ヲ柔ト謂フ物ニ
 於ハ韋帛人ニ於ハ便辟
 ノ小人ナリ而シテ人皆
 剛ヲ忌テ柔ヲ好ミ蹇諤
 ヲ遠ザケテ便辟ヲ近ク
 クルハ何ソ剛ノ親ミ難
 ク柔ノ剛ヤスキヲ以テ

紀水藩正好黨顛末

水藩主徳川齊昭深ク外事ヲ憂ヒ大ニ國政
 ヲ釐メ藤田彪戸田忠敬等事ヲ用テ國老結
 城寅壽コレヲ嫉ミ癡佛ノ議ノ起ルニ及ビ
 僧徒怨望ス寅壽僧徒ニ嫉シ齊昭ノ異志ア
 ルヲ誣告ス幕府コレヲ疑ヒ齊昭ヲ幽閉シ
 彪等ヲ禁錮ス寅壽是ヨリ益々横マナリ
 是ニ由テ彪寅黨ヲ分ツ彪ノ黨ヲ後ニ正黨
 ト謂ヒ寅ノ黨ヲ後ニ奸黨ト謂フ之ヲ正好
 不黨ノ始ト為ス彪既ニ死シ齊昭モ亦卒ス
 ルニ及ンテ仇隙猶ホ解ケズ而シテ奸黨市

鐘聲シ○
夕景ーシ
○野色ー
シ○緑樹
ーシ○半
窓ーシカ
ノケシキ又ハ
アメノフルトキ
二用 ○残痕
半ー ツキカ
ゲナド
二用 ○月ニ

ナリ、而シテ彼ヨリ之ヲ
言ハ剛者常ニ勞シテ系
者常ニ逸ス、豈ニ憫ムベ
キニ非ズヤ、之ヲ狗ト猫
トニ喩ス、其ノ形体ヲ言
ンカ、狗ノ粗ナルハ猫ノ
膩ナルニ若ズ、其ノ声音
ヲ言ンカ、狗ノ猛勵ナル
ハ猫ノ嬌然ナルニ若ズ、
其ノ性情ヲ言ンカ、狗ノ
剛決ナルハ、猫ノ善柔便

川五左五門朝比奈太郎等藩政ヲ執ル、彪
ノ子藤田信田村直諒等憤激シテ乃チ兵ヲ
拳ゲ齊胎ノ遺志ヲ紹ト宣言ス、武田正生其
ノ輕拳ヲ憂ヒ、將ニ之ヲ處スルアラントス
彪等遂ニ筑波山ニ據リテ嬰守ス、奸黨援兵
ヲ幕府ニ請ヒ之ヲ討ズ、正黨殆ト支ヘズ、奸
黨益々志ヲ得タリ、武田正生ハ彪ノ姻戚ナ
リ、正生往テ兩黨ヲ諭ント請フ、幕府支藩松
平頼徳ニ命シテ之ヲ鎮シメ、正生ヲシテ從
ハシム、頼徳城下ニ抵ル、奸黨ノ長市川等其
ノ鎮撫ノ命ヲ奉ジ、反テ正生ト比周シ、乱ヲ

痕アリ○
月一ー○
月一ヲ移
ス ツキノカケヲ
イフナリ
○思ヲ叨
ニス○思
ニ露フ○
思ニ飽ク
○思ヲ蒙
ムル○思
ヲ銜ム
アオン
アウ

辟ナルニ若ズ、是ニ於テ
カ人常ニ猫ヲ愛シテ狗
ヲ疎ンズ、而シテ猫ノ人
ニ於ルヤ、常ニ其ノ左右
ヲ離レズ、其ノ閨闈ニ出
入シ、食ニ魚アリ、寢ニ褥
アリ、狗ハ則チ然ラズ、餒
ヲ食ヒ外ニ寢ネ、其ノ主
ヲ親近スルヲ得ズ、終夜
戸ヲ守テ嘗テ賞セラレ
、ナリ、猫ハ則チ勞セズ

作ヲ讓メ、幕命ヲ以テ之ヲ執フ、正生之ヲ聞
キ怒テ藤田ト兵ヲ合セ、奸黨ヲ誅鋤セント
欲ス、而シテ克ハズ、諸方ニ走リ、終ニ縛ニ就
キ、越前ニ斬ル、其ノ後四年ニシテ時勢一變
シ、正黨再ヒ起リ、終ニ市川等ヲ斃シ、慘毒ヲ
極ム、是ニ於テ兩黨ノ争ヒ始テ平グ、之ヲ令
黨ノ終ト為ス。

熟語
兵皆瓦合ニシテ号令一ナラズ○某某等憤
激シテ乃チ同盟シ兵ヲ拳グ○兵ヲ出シ之
ヲ城外ニ拒ギ、銃ヲ擯メテ乱撃ス○乃チ相

クルー ○父
ヲイフ

母ノ恩 ○

邱山ノ恩 ○

○生養ノ

○寒ヲ送

○輕寒

○殘一

○夏

○夏寒多

シテ賞ヲ受ク是レ剛柔
ノ辨アル所以ナルカ。

熟語

予レ固ヨリ甚タ疑フ何
バ柔者ノ人ニ容ラレ剛
者ノ人ニ忌ルヤ○金
鐵ハ物ノ至リテ剛ナル
者ナリ而シテ其ノ用一
日モ欠ベカラズ○剛ノ
世ニ益アルヤ必セリ○
李義府ノ善柔ニシテ之

共ニ謀リ京師ニ入り情ヲ闕下ニ訴ヘント
欲ス○渠レ獨リ公ヲ招キ臣等ヲ容レズ其
ノ意豈ニ測ルベケンヤ○過ル所口豫ジメ
使テ遣リ情ヲ陳シ道ヲ假フ乞フ○窮蹙シ
テ為ス所ヲ知ラズ遂ニ出デ降ル。

紀徳川家康公逸事

平塚越中ナル者ハ因幡守為廣ノ弟ナリ幼
ニシテ驍名アリ其ノ退キテ家ニ在ル徳川
家康公百方コレヲ招ケ凡肯ゼズ曰ク府
ハ温言ニ長ジテ賜予ニ吝ナリ我レ此ノ如
キノ人ニ仕ルヲ屑トセズ後チ遂ニ石田三

シ ○六月

寒シ

秋色

○霜色

○草露

○霜

○寒

○迎フ

○護ル

ヲ李猫ト云フ亦宜ナラ
ズヤ。

御馬説

騎ヲ善クスル者アリ驚
馬ニ騎レバ則チ逸シ悍
馬ニ騎レバ則チ馴ス是
ノ故ニ終日騎シテ馬ニ
餘カアリ若シ其ノ駿馬
ヲ驅ルニ當リテハ瞬息
ニシテ百里ヲ馳セ前ニ
峻路ナリシテ馬モ亦喘

成ニ仕フ公聞テ常ニ平ガサル能ハズ既ニ
シテ三成関原ニ敗ル軍吏越中ヲ生縛シテ
以テ献ズ公コレヲ快トシ且ツ笑ツテ曰ク
汝向ニ我ヲ足トセズシテ三成ノ重聘ヲ受
ケ以テ今日アルヲ致ス其ノ状洵ニ觀ルベ
シト越中目ヲ張り罵リテ曰ク咄戦ト敗レ
テ虜ト為ルハ武夫ノ常ノ足下ノ幼ナル
織田氏ニ因テ縲紲三年醜態想フベシ是ヲ
問フシテ何人ヲ嘲ルヲ為シ抑モ故太閤
ノ遺訓ニ負キ孤兒寡婦ヲ蔑視シテ以テ天
下ノ權ヲ奪フ足下ノ為ス所ノ如キハ乃チ

○雨声一
シ○月色
はシ○角
声一シ○
鷹影一シ
朱丹
丹○一
吐ク○ト
ヲ傳ク○
一ヲ留ム
○丹ヲ會

汗セズ人モ亦軒輕セス
鞍上平穩ニシテ席上ニ
坐スルヨリモ安シ或ハ
怪ミテ之ヲ問フ答テ曰
ク我モ亦其ノ果シテ如
何ヲ知ラザルナリ然レ
氏我ハ吾ガ志ヲ正シテ
其ノ性ニ悖ラザルノミ
驚者ハ我レ之ヲ激シ悍
者ハ我レ之ヲ懐ク駿馬
ニ至リテハ其ノ為ス所

丈夫ノ耻ル所ナリ我レ何レ此ノ無道ノ主
ニ仕ンヤ吾ガ頭ハ断ベキモ吾ガ口ハ塞ク
ベカラスト公怒リテ曰ク此ノ無狀漢ハ其
ノ一撃シテ快ト為ンヨリ餘喘ヲ留テ以テ
人間ノ苦楚ヲ受シムルニ若ズト縛ヲ解キ
之ヲ放ツ他日本多正信其ノ越中ヲ殺サド
ルヲ問ス公曰ク越中ノ憎ムベキハ剛愎
リ倨傲ナリ其ノ勇其ノ辨皆惜ムベシ彼
縦ヒ孤ニ無礼ナルモ留テ以テ子孫鷹犬
用ト為バ亦一士ヲ失ハザルノミト正信感
歎シテ曰ク臣等淺中ノ及ブ所ニ非ズト

ム
○雁行單
ナリ○雁
影一ナリ
○宿鳥一
ナリ○衣
ノ單ナル
ヲ覺フ○
秋花單ナ
リ
○残燈○

ニ任セテ我ハ與カテザ
ルナリ鞍ハ我レ之ニ據
ノミ未ダ嘗テ其脊ヲ攻
ズ戀ハ我レ之ヲ按ズル
ノミ未ダ嘗テ其ノ口ヲ
擾サズ務メテ馬ノ性ニ
適フテ其ノカヲ尽サズ
而シテ馬ノ我レト戀鞍
ノ間ニ相ヒ忘ル此ノ如
キノミト嗚呼此ノ言ヤ
以テ道ヲ学ブニ喻フベ

熟語
勝敗ハ兵家ノ常事ノミ何レ深ク耻ルニ足
ラン○足下ノ餒餘ノ如キハ犬狗モ將ニ食
ハザラントス○我レ何レ足下ノ如キ耻テ
知ラザル者ニ仕ンヤ斫ント欲セバ速カニ
斫ント○余ノ今日アルハ猶ホ足下前日ノ
囚縲ト為ガ如シ○彼ノ詬罵ハ憎ムベシト
雖モ其ノ才ハ取ルベキ所アリ○方今戰國
一士固ヨリ惜ムベシ
賴三樹三郎傳
賴醇八字ハ子春鴨涯ト号ス又古狂生ト号

殘燭○燈
光殘ス○
燭影一ス
トモシビノクラ
クナリシライフ

熟語

千里ヲ行ト雖也、未ダ嘗
テ汗セズ○其ノ術ヲ得
サレバ、必ズ顛跌ノ患ア
リ○馬ト我ト相忘ル是
ニ於テカ、馬モ以テ其ノ
オヲ展ルヲ得○喘テ且
ツ汗セザル者ハ馬ノ良
ナル者ナリ○轡ヲ操ル

ス家世安藝ノ人ナリ父襄ハ文學ヲ以テ大
ニ名アリ醇ハ其ノ第三子ナリ文政八年ヲ
以テ京師ハ三樹坊ニ生ル因テ三樹三郎ト
稱ス幼ニシテ穎悟骨相奇峻裏ハ鍾愛スル
所ト為ル年十八ニシテ東游シ若費ニ在リ
業ヲ佐藤坦等ニ受ク嘗テ東台ニ詣リ途ニ
被接ニ飲ミ大ニ酔ヒ祠廟ノ宏濶ナルヲ觀
テ歎テ曰ク徳川氏朝廷ヲ蔑視シ敢テ華侈
ヲ極ム何ゾ惜ナルト遂ニ寺門ノ石燈ヲ蹴
倒シ快ト呼ブ事露レ將ニ罪セラレトス
事僅ニ罷ムヲ得タリ内勅ノ水戸侯ニ下ル

ハナノイロ
スノカハリシ
○芳草
關ナリ○
春色一ナ
○柳絮
一ナリ○
花鳥一ナ
ハルノマカ
リニモエ
○幽蘭○
芳一○香
一○秋一

組ノ如シトハ其レ是ノ
謂カ○此ノ如クナレバ
天下ニ其レ驚馬ナカラ
ントスルカ

續燈說

燈ナル者ハ果シテ何ノ
用之ヲ玩ソガヤ抑モ
物ヲ照スガ為ナリ苟モ
物ヲ照シテ明カナラバ
觀ルニキナク玩アナシ
ト雖也燈ノ名ニ於テ愧

ヤ最モ興リテカアリ戊午ノ難ニ逮ニ京師
ニ就キ江戸ニ檻送セララル幕吏其ノ國政ヲ
私議シ朝貴ニ游説スルヲ詰ル醇曰ク僕幼
ニシテ訓ア家庭ニ受ケ尊接ノ志ヲ抱ク此
ノ間同盟ト朝吉ヲ奉スルノミ今日ニ在テ
旨ニ違フ者ハ賊ニ非レバ則チ夷ノミ僕誓
テ夷賊ト為ルヲ肯ンゼズト後千松山藩邸
ノ獄舎ニ繫ガハ醇ノ罪ハ死ニ至ラズ幕府
之ヲ宥ント欲ス而シテ慷慨自ラ宋ノ文履
善ニ比シ詬罵止マズ遂ニ斬ニ處セラル時
二年三十四ト云フ

アキノアキラ ○
イフナリ
弾丸ノ如
シ ○
黒子 ○
ノミ 地面
ルア ○ 高官
○ 貴官大
高位達官
職 ○ 清要

サルナリ若シ名ハ燈タ
リ而シテ其ノ実明ニ益
ナクンバ安ンゾ其ノ燈
タルニ在ランヤ本邦ノ
俗中元ニ家々繡燈ヲ掲
グ或ハ雲龍若クハ山水
ヲ墨画スル者アリ巧ハ
則チ巧ナリ美ハ則チ美
ナリ然レモ其ノ明ニ於
テハ赤燈ニ譲ル者萬々
ナリ何ゾ思ハガルノ甚

熟語

傲慢ニシテ屈セズ醉フ毎ニ善ク罵リ喜ン
テ劍舞ス ○ 其ノ獄中ニ在ルモ猶ホ唱和シ
テ依然タリ ○ 民衆ヲ培克シ政テ奢侈ヲ極
ムル者ハ真ニ朝家ノ賊ナリト云フベシ ○
慨然トシテ節ヲ斲リ當世ノ名士ト共ニ國
事ヲ周旋ス ○ 外使ノ来リテ互市ヲ要請ス
ルニ會シ幕吏甚ク偷安ヲ務ム
紀曾呂利新左工門事
曾呂利新左衛門ナル者ハ豊太公ノ臣ナリ
談言微中シテ善ク人ノ頤ヲ解久一日未リ

ノ官 ○ 將
相ノ一
香
盤 ○ 瓊
○ 仙
金 ○ 銀
○ 珠
○ 玉
○ 漫
○ 渺
ウミナドノ
ヒロキアイフ

タシキヤ而シテ天下是
ニ類スル者モ亦多シ今
マ夫レ士大夫ノ名ヲ以
テ一丁字ヲ知ラズ其ノ
官ヲ問バ則チ曰ク某ノ
属官ト其ノ俸給ヲ問バ
則チ曰ク何等ニシテ若
子金ヲ受ト而シテ其ノ
職務ヲ問バ則チ曰ク甚
ク暗シト嗚呼繡燈ノ不
明ハ猶ホ恕スベシト雖

テ徳川公ノ館ニ候ス間話ノ餘公ニ啓ス曰
ク世ニ大黒天ヲ以テ福ヲ降スノ神ト為シ
家々ニ之ヲ祭レリ其ノ奥義ヲ知ル者鮮ナ
シト公ノ曰ク願クハ其ノ説ヲ聞ント曾呂
利ノ曰ク大黒ノ貌タルヤ豊類ニシテ織目
其ノ眉宇ヲ高クシテ黒帽ヲ戴ク者ハ其ノ
上ヲ覬覦スルナキノ心ヲ表スルナリ入ト
シテ其ノ上ヲ覬覦セザレバ則チ驕慢ノ心
自カラ消テ人々舐ク其ノ介ニ安ンズ百福
ヲ致ス所以ナリト公慨然トシテ之ニ頷シ
テ曰ク然リ我ニモ亦五字ノ訣アリ曰ク宇

紫闥○竹
○雲
○松

氏士大夫ニシテ此ノ如クハ、繡燈ニ如カザル、其レ幾クヤヤ

熟語

○落花
○花ニ
○梅花ノ
○花開
○擁スハル
○幽灣○晴
○緑
○荷
○竹
○楊柳
○明
○午夢
○夢
○魂

物ノ親玩スヘキ者ヲ求ムレバ何ゾ必スシモ繡燈ヲ用ヒン○今マ士大夫ハ人民ノ燈ナリ、而シテ不明ナラバ、何ゾ士大夫ニ取ラン○物タル微ト雖、其ノ用タルヤ甚

辺遠美奈ト、又七字ノ訣アリ、曰ク美乃保土、遠志礼ト蓋シ皆此ノ意ノミ抑々大黒ノ帽ヲ戴ク所以ハ更ニ一層ノ深理妙訣アリ、汝コレヲ知ルカト曾呂利曰ク知ラズト、公曰ク夫レ其ノ帽ヲ戴ク所以ノ者ハ一タビ脱シテ天ヲ望ント欲スルノミ、諸ヲ士ノ佩刀ニ譬フレバ、常ニ室ヲ固クシテ、以テ善ク藏スルモノニ、其ノ一タビ抽テ以テ用ヲ為ス時ヲ待ナリ、カニシテ抽サレハ刀モ亦長物タリ、即シ帽ニシテ、脱スルナケレバ是レ亦膠柱ノ琴ニ、果シテ何ノ妙用ゾト、曾呂利

○幽灣○晴
○緑
○荷
○竹
○楊柳
○明

大ト云フベシ○其ノ実タル擧ラザレバ何ゾ其ノ名ヲ取ラン○其ノ光リ能ク遠キニ及ハハ、何ゾ繡ヲ用ヒンヤ

油菜説

○午夢
○夢
○魂

均シク是レ草ナリ、而シテ徳アリ功アリ、以テ人ニ益アル者ハ其レ油菜ナルカ、蓋シ油菜ノ草タルヤ、蘭菊ノ芳香アルニ

憮然トシテ間クアリテ曰ク之ヲ命ヘリト

熟語

昔シ明智光秀ハ大黒天ヲ奉シテ供養甚ク謹レメリ○豊太公ノ兵ヲ出スヤ、途ニシテ大黒ノ木像ヲ得タリ、斬テ之ヲ捨ラル○徳ノ福ト果シテ大黒天ノ如クナレバ、人ノ常情ハ足レリ○或ハ黄金ヲ以テ之ガ像ヲ作リ以テ之ニ事フル者アリ○嘗テ聞ク大黒天ハ僅カニ千人ノ衆ニ主タルノミト○此ノ如クナレバ大黒ノ罪人ト云フモ、誣ズト謂フベキナリ、

等紅事論語五百題上

幽夢一ル

釣舟還ル

○牧豎一

ル○潮ヲ

趁テ一ル

○魚ヲ得

テ一ル方

○妹顔○華

一○芳一

非ズ牡丹芍薬ノ嬌態ア

ルニ非ズ而シテ君子ノ

道ニツアリ其ノ始テ生

ズルヤ秋冬ノ際ヲ以テ

シ風ヲ肩シ寒ヲ陵ギ霜

雪ヲ經歷シテ凋マズ変

ズズ是レ君子ノ節操ア

ルニ非ズヤ其ノ終リヤ

実ヲ結ビ油ト為レバ則

チ晷ニ継ギ夜ヲ照ス天

下ノ人誰カ其ノ光明ヲ

紀徳川光國卿訓戒辭

徳川光國卿ノ家ヲ其ノ世子綱條卿ニ譲リ

將ニ國ニ帰ラントスルヤ綱條卿ヲ戒メテ

曰ク嗚呼汝欽哉治國必依仁禍始自閔門慎

勿亂五倫既ニ帰リ諸臣ヲ諭シテ曰ク吾レ

弟ヲ以テ封ヲ襲キ怙怙タルト之ニ久シ今

マ國ヲ少將ニ譲リ志願畢レリ卿等能ク吾

ニ事ル所ノ者ヲ以テ少將ニ事ババ吾レ後

何ヲカ憂ヘン夫レ君ハ譬バ舟ナリ臣ハ譬

バ則チ水ナリ水ハ能ク舟ヲ浮ベ又能ク舟

ヲ覆ヘス之ヲ最ヨト又藩士ノ子弟ヲ召シ

○翠一○

艶一○嬌

一○花一

美人ヲホメタ

ル一ニテカホ

○衰一○

類一ニラウ

朱顔○蒼

一○紅一

フベシ因テ之カ説ヲ作

仰ガザラン是レ君子ノ

功績アルニ非ズヤ若シ

夫ノ蘭菊ノ属ノ如キハ

其ノ操アリテ其ノ功ナ

ク牡丹芍薬ノ如キハ唯

其ノ嬌態アルノミ其ノ

操ニ至リテモ亦アルナ

シ況ンヤ切ニ於テラヤ

今マ菜ハ操ト切トヲ具

ス亦人ニ益アル者ト云

テ之ヲ諭テ曰ク汝ガ輩年少シ意ニ當ニ勇

ヲ奮ヒ命ヲ授ルヲ思フベシ然レモ危キニ

臨ミ死ヲ致スハ士ノ常ナリ血氣ノ勇ハ

盜賊ダモ尚ホ之ヲ能ス是レ死スルノ難キ

ニ非ス死ニ處スルヲ難シト為ス能ク之ニ

處セント欲セバ道ヲ学ブニ在ルノミ夙夜

ニ致々トシテ倫理ヲ明カニシ實行ヲ勵ム

此レ汝ガ輩ニ望ム所ナリ然ラザレバ則チ

乱ヲ思ニ禍ヲ樂ム者ナリ戒メザルベケン

ト嗚呼西山公ノ如キハ真ニ君子ノ道ヲ

履ム者ト云フベキナリ

ノ前ハルノ
○樓前
○簷一〇
帳一〇階
一〇簾一
○窓一〇
榻一 家ノウ
千ニア
リテ外ヲミ
ルナドニ用フ
○三千〇十
一〇百一
○半一〇

其ノ枝葉ヲ生ゼズ是レ
其ノ旬日ノ間ニ長ズル
所以ナリ唯其ノ屈曲セ
ズ是レ其ノ千尺ノ高ヲ
致ス所以ナリ唯其ノ籜
ニ文ナキハ堅貞ノ徳ヲ
成ス所以ナリト余レ之
ヲ聞キ節ヲ撃テ嘆賞シ
テ曰ク善カナ言ヤ謂フ
所口枝葉ヲ生ゼザル者
ハ末技ヲ務ザルニ非ズ

砲數百千門ヲ鑄ント其ノ三ニ曰ク洋製ニ
模シ堅艦ヲ作り以テ江戸ノ漕米ニ供ント
其ノ四ニ曰ク久衆ニ撰ビ海運ヲ掌ラセ以テ
丘市ヲ督シ奸闖ヲ彈セシム其ノ五ニ曰ク
水軍ヲ練ント其ノ六ニ曰ク學校ヲ興シ教
化ヲ敷キ以テ忠孝節義ヲ勵マサント其ノ
七ニ曰ク信ニ賞シ必ズ罰シ兼テ威惠ヲ施
シ以テ民心ヲ結ント其ノ八ニ曰ク貢奉ノ
法ヲ創ント終ニ用ヒラレズ後ニ又十策ヲ
献ズ又報ゼラレズシテ止ス真ニ惜ムベシ

熟語

萬一ノノカ
○陌阡
○連一〇
横一〇東
一〇番一
○郊一〇
○天
ニ連ナル
○天ニ際
ス〇天ニ
接ス天ニツ
クイラ

ヤ謂フ所口屈曲セザル
ハ正直ニシテ破砕ノ行
ナキニ非ズヤ謂フ所口
籜ニ文ナキ者ハ知ラレ
シヤ人ニ末メザルニ非
ズヤ今世ノ士人ハ實學
ヲ講セズ斯ノ三戒ヲ知
ラザル者多シ翁ノ余ニ
告ルハ豈ニ余ヲ戒ムル
ガ為カ將世ノ人ニ諷ス
ルカ余レ大ニ感ズル所

曰ク堅艦ヲ造リ水軍ヲ習シ以テ外寇ヲ防
ン〇曰ク砲臺ヲ沿海ノ要處ニ築キ其威ヲ
海外ノ人ニ觀サン〇曰ク宜ク砲政ヲ定メ
硝田ヲ開キ一旦緩急ノ用ニ備フベシ〇曰
ク宜ク我ノ短ナル所ヲ舍テ彼ノ長スル所
ヲ取リ名聞ヲ措キ實用ヲ舉ベシ〇其ノ沿
海ヲ巡視スルニ當リ砲臺ノ一日モナカレ
バガラザルヲ論ス〇其ノ果シテ用ヒラレ
ザルヲ知ルト雖氏懷ニ置アタハズ

紀織田右府察微

織田右府嘗テ自ら十指ノ甲ヲ剪リ侍臣ヲ

アイ○夕陽ノ夫○薄

暮ノ一○斜陽ノ一

○暮ノト

欲スルノ

一○夕陽ノ一

○絃ヲ鳴

ス○一

按ズ○一

ヲ弄ス○

テ云ホス、

熱語

余ノ居ヲ某ニトスルヤ。庭ニ青竹数竿アリ。○オニ地ヲ出レバ既ニ陵雲ノ氣アリ。○其ノ獨立シテ倚ラザルノ意ハ既ニ籜ヲ被ムルノ内ニ見ハル。○世ノ末技ヲ務ル者豈ニ心ニ耻ザランヤ。○翁ノ言蓋シ託スルアリ

天蘇羅説

府下ニ油磁ヲ制シテ天蘇羅ト称スル者アリ。蓋シ漢土ニ謂フ所ノ塔不刺ナル者ト齊シ其ノ製葱椒油醬ヲ用テ熱熱シ後ニ鴨或ハ鵝雞ヲ下シ。謾火ヲ以テ養熟スト我邦ノ天蘇羅ナル者ハ則チ塔不刺ノ誤リナリ或

シテ其ノ剪餘ヲ收メシム侍臣左右ヲ搜索シ久クシテ去ラズ。信長之ヲ問フ汝ハ何ノ故ニ退カザルト答テ曰ク剪餘既ニ九ヲ得テ而シテ未ダ其ノ一ヲ見ズト信長為ニ起テ兩袖ヲ拂フ則チ瓜片墜ル者一ツ。信長大ニ之ヲ賞シテ曰ク人ノ心ヲ用フル當ニ此ノ如ク緻密ナルベシト。又嘗テ侍臣ヲ召ス至レバ則チ曰ク事既ニ辨ズ復用ナシト侍臣待尔トシテ退ケリ少クシテ復一人ヲ召ス亦此ノ如シ。最モ後ニ一人召ニ應ジテ往リ伺候スル良久シ亦復事ヲ命ゼズ侍臣將

ニ退ゾカントス願ミテ席間ニ遺ル所ノ塵埃ヲ拾ツテ以テ出少信長俄ニ呼ビ之ヲ止テ曰ク坐セヨ吾レ汝ニ語ラン凡ソ進退ハ必ラス機アリ機ヲ見テ動ク是レ軍ノ善謀ト為ス汝ノ今ノ退クガ如キハ能ク兵機ヲ知ル者ト謂フベシト。嗚呼右府公ノ思克ノ質ヲ以テ人ヲ細微ノ末ニ察スル此ノ如シ是レ織田氏ノ門ニ懈惰不警ノ士ノナキ所以ナルカ、

熱語

軍機ハ之ヲ平日ニ講ゼザルベカラズ一舉

柳一〇絳

一〇紫

煙ヲ籠ム

一〇ヲ帶

一〇一ヲ

含ム

一〇芳蓮

一〇雙

紅一〇白

一〇疎

一〇珠

ハ曰ク好事者ノ名ツク

ル所ト亦未ダ知ルベカ

テ余レ聞ク世ノ之ヲ

業トスル者凡ソ魚ノ饒

スル者ヲ用ヒ歎シテ之

ヲ羅シ油熬シテ以テ帶

久之ヲ啖ヘバ腹痛ミテ

嘔泄ス故ニ鄙俗ニ外ノ

姿色アリテ内ノ魯鈍ナ

ル者ヲ呼ビ天賦羅漢ト

曰フ乃チ士ノ面ハ柔順

手一投足ハ是レ則チ軍機ナリ

ハ小事ト雖モ其ノ動止ハ則チ一軍ノ進

退ニ關ス〇明主ハ一頓一笑ヲ惜メリ況ン

ヤ位階封土ノ與奪ニ於テヲヤ〇其ノ心ヲ

用フル細ナレバ其ノ事ニ見ハルモ亦細

ナリ〇人ヲ進退語黙ノ間ニ見レバ其ノ情

ヲ逃ル所口ナシ〇是レ英雄ノ人ヲ欺ム

ク所以ノ術ナルカ

紀赤穂義士復讐

十二月十四日ヲ以テ大石良雄等ノ四十六
人ハ堀部金丸ノ舎ニ會シ飲ヲ張リ夜介ニ

一〇翠

香一〇孤

一〇ハス

一〇蓮

一〇採ル

一〇折ル

一〇ハス

一〇ハス

一〇ムニ

一〇堪タリ

誰カ憐マ

ニシテ性ハ姦佞者ト夫

ノ朝服衣冠ヲ著ケ形貌

映麗ニシテ毫モ國家ニ

益ナキ者ト之ヲ天賦羅

漢ト謂フモ亦可ナリ而

シテ彼ハ其ノ毒ニ中ル

ノ患ヒアリ此ハ其ノ毒ニ

中ル者ハ其ノ家ヲ失ナ

ヒ其ノ財ヲ亡ナフアリ

豈ニ恐レザルベケンヤ

豈ニ戒メザルベケンヤ

至リ衆各々同盟橋舎ノ傍迄ニ在ル者ニ就

キ装ヲ解キ服ヲ更メ良雄ニ堀部武庸ノ舎

ニ會ス衆皆鎧甲ヲ衷ニシ兜鍪ヲ戴キ韋服

ヲ著ク救火夫ノ状ノ如クシテ子鎗長梯大槌

ヲ擔ヒ之ニ從フ約シテ曰ク事若シ成ラザ

レバ火ヲ縱テ自刃セント乃チ衆ヲ介テニ

ト為シ進ミテ吉良義英ノ第ニ至ル前後ヨ

リ吶喊シ門ヲ排シ屋ニ梯シテ進ム良雄ハ

前門ヨリ入り子ノ良金ハ後門ヨリ入ル呼

テ曰ク淺野氏ノ遺臣来テ主ノ仇ヲ報ス禦

ント欲スル者ハ出ヨト卿ヲ擧テ駭愕シ出

等糸事言言五百是

因テ之カ説ヲ作ル

熟語

晩近ノ市ニ鬻グ所ノ者

ハ魚肉精鮮ニシテ油モ

亦佳ナリ○香油ノ美ナ

ルハ佳人ノ天質麗カナ

ルガ如シ○其ノ外ヲ美

ニシテ其ノ中ヲ醜ニス

ル者ハ豈ニ獨リ天慈羅

ノミナランヤ○獨リ官

ニ益ナキノミナラズ將

ス所ヲ知ラズ衆争ヒテ突入シ槌ヲ揮ヒ戸

ヲ破リ声竹ヲ割ガ如シ家衆多ク竄避シテ

出ス寢室ニ至ル比ヒ義英已ニ逃シ林蔭尚ホ

暖カナリ皆曰ク人去ル未ダ久シカラズ急

ニ室中ヲ搜ル者数四ナルモ獲ル能ハズ吉

田兼亮等側房二人声アルヲ聞、戸ヲ排シ

テ入ル三人アリ磁器烏炭ヲ乱擲シテ之ヲ

拒ク衆前後圍ミ逼ル二人一人ヲ翼蔽シ奮

闘シテ死ス一人小刀ヲ拔テ將ニ闘ハント

ス間光興槍ヲ揮ツテ之ヲ鋌ス武林隆重旁

ヲ従リ撃テ之ヲ殪ス衆其ノ義英タルヲ疑

○愛憐○
可○嬌
一○十項
ノ田○数
頃ノ一○
一畝ノ一
○二頃ノ
一田ノスコシ
ナルヲイフ
○萬頃玩

ニ民ニ害スル者アラシ
トス恐レザルベケンヤ

疑ス乃チ其シテ尸ヲ驗ス白襪衣ヲ著ク肩ニ
刀痕アリ衆喜ビテ曰ク是レ洗君ノ傷クル
呀ナリト良雄光興ヲシテ其ノ首ヲ斬シム
門者ヲ執ヘテ之ヲ訊フ果シテ義英ナリ乃
チ号笛ヲ吹キ衆ヲ聚ム衆喜ビ極リテ哭ス
良雄命ジテ帛ヲ以テ義英ノ首ヲ裹ミ之ヲ
槍竿ニ懸ケ衆ヲ率テ去リ品川ノ泉岳寺ニ
赴クト云フ

瑠ノ田○
麥綠田ニ
満ッ○香
稻平田ニ
熟ス田ニヨク
モノデ
キルヲ
イフ
○花
○金
○玉
○翠
○珠
ミゴトナルカン
ガシマイン

影法師ハ何ノ所ノ人ナ
ルヲ知ラス人行バ随ツ
テ行キ人坐スレバ随テ
坐ス物動ケバ又随ツテ
動キ物止マレバ又随ツ
テ止マリ之ヲ執ヘント
欲スルモ得ズ之ト語ラ
ント欲スルモ答ヘズ其

熟語
衆踴躍シテ之ヲ刺ス曰ク以テ先君ニ地下
ニ見ユルヲ得ベシト○其ノ夜偶々大ニ雪

山巔○嶺

○百尺

○翠

○微

○紫翠

○芙蓉

○豐年

○年

○妖

○佳

○清

○妖

○鮮

○娟

○月

○月

○月

○月

○月

○月

○月

○月

ノ来ルヤ、日月若クハ燈

火ノ光ト與ニシ、其ノ去

ルヤ、亦之ト與ニシ、嘗テ

人ニ益セズ、又甚ダ人ヲ

害セズ、是レ尋常ノ影法

師ナリ故ニ人モ亦甚ダ

之ヲ疾マズ、今マ人アリ

来リテ事ヲ問フ、其ノ再

ビ来ルニ及ビ、之ニ問バ

則チ曰ク、余ハ来ラス、其

ノ来ル者ハ蓋シ、余ノ影

法師ナラント、是レ

生出スル所ノ影法師ニ

シテ、其ノ屬甚ダ繁行シ

或ハ一人ニシテ四五人

前ノ年賀ヲ勤メ、或ハ一

人ニシテ三四人ノ類焼

ヲ評訪ス、是ニ於テカ世

ノ人甚ダ之ヲ惡ミ、遂ニ

併セテ其ノ真ノ人ヲ疾

ムニ至リ、其ノ真ノ人モ

亦其ノ影法師ヲ惡ムニ

フル皆曰ク、今夜離必ズ怠ラン、是レ天ノ與

フル呀ナリ○来リテ拒グ者ハ之ヲ殺シ恐

レテ避ル者ハ之ヲ免ス○先君ノ賜ハル呀

ノ化首ヲ以テ離ノ首ヲ撃ツ三曰ク、可ナリ

ト○乃チ一書ヲ官ニ奉シ、其ノ罪ヲ正シ國

典ニ處セラレントテ乞フ○離ノ首ヲ以テ

墓前ニ供ヘ、香ヲ焚テ、復離ノ事畢ルヲ祭告

ス○義烈此ノ如キハ、古ヘヨリ希ト為ス呀

ニアラズヤ、

紀茶禿正齋事

松平遠江守忠喬ハ人ト為リ、寛仁慈愛ニシ

テ、妄リニ喜愠セズ、職ニ在ル五十六年ナレ

ル、未ダ嘗テ一日モ怠廢セズ、遂ニ爵ヲ進ノ

テ、從四位下ニ至ル、益シ、忠勤ノ力ト云フ、老

臣アリ、逆ヲ謀ル、隱計既ニ熟ス、忠喬ヲ茶禿

ニ延キ、從容トシテ、款接シ、毒ヲ碗茶ニ置キ、

以テ之ヲ侑ム、忠喬コレヲ知ラズ、徐ニ之ヲ

喫セント欲ス、茶禿正齋走り来リテ之ヲ止

メテ曰ク、茶ノ色惡シ、是レ必ズ異アラシ、

人請フ之ヲ試シント、碗ヲ舉テ仰ギ飲バ、則

チ轉碾シテ血ヲ吐キ、而シテ死ス、忠喬驚キ

起ント欲ス、賊其ノ袖ヲ持テ、侍臣高木某賊

○醉眠 至ル、而シテ天下ノ事之

○晝一〇 二類スル者多シ、因テ之

午一〇安 影法師ヲ戒シム

○熟一〇 影法師ヲ戒シム

○獨一〇 以上

○眠一〇 以上

驚カス〇

一〇覺ス

一〇攪

以上ハネホリ
ス
ヲサマヌ
ス

○九淵〇

時ニ或ハ其ノ形ヲ現ジ

テ人ノ目ヲ悦バシムル

一〇アリ〇或ハ眼前ニ来

リテ光ヲ遮ギルコアリ

○今ノ影法師ハ安ンゾ

昔ノ真形ニ非ザルヲ知

ランヤ〇是レ其レ損益

ノ間ニ在ルカ〇天下ノ

影法師ヲラザル者其レ

幾バクゾヤ、

御俾馬説

悍馬ヲ御スルニ術アリ

其レ猶ホ勇將ヲ御スル

ガゴトシ、其ノ術トハ何

ゾ、先ヅ之ガ駕録ヲ豊ニ

シ、以テ其ノ腹ニ盈シメ

之ニ千里ヲ責テ以テ其

ヲ抱キ地ニ伏ス、一人捨テ執テ、鏡テ之ヲ殺

ス、是ノ日正齋ナカリセバ、忠奮殆ント免カ

レズ、初メ忠奮冬月天ノ寒キニ方ヲ褥ヲ火

閣ニ覆ヒ、擁シテ以テ暖ヲ取ル、偶々正齋来

リテ炭ヲ添フ、褥尾揚リテ火ヲ拂ス、火墜テ

席ヲ燎ク、且ツ微ク忠奮ノ足ヲ傷ツク、正齋

蒼黄トシテ火ヲ收メ、戰栗シテ罪ヲ請フ、忠

奮神色変ゼスシテ曰ク、褥尾ノ火ヲ拂フノ

ミ、必ズシモ汝ノ罪ナラス、但糾官ノ席ノ爛

ルヲ視バ必ズ汝ヲ責ン、宜ク之ヲ他ニ移シ

テ以テ其ノ跡ヲ滅スベシト、竟ニ呵責ノ言

ナシ、正齋感極リテ泣ク、毎ニ厚ク之ニ報

所以アルヲ思フ、此ニ至リテ果シテ其ノ死

ニ代ル、豈ニ正ノ正タル者ニ非ズヤ、

未ダ嘗テ喜怒ヲ以テ人ヲ待セズ、其ノ中心

樂易〇勤務煩劇ト雖モ未ダ嘗テ疾言遽色

スルコアラズ〇其ノ外貌ハ儒者ノ如シト

雖モ其ノ心ハ介然タル所アリ〇姦臣アリ

某ト云フ、將ニ謀リテ公ヲ殺ントス、謀既ニ

成リ其ノ發スル期アリ〇某ハ固リ忠直ヲ

以テ称セラル、姦臣ノ公ヲ圖ントスルヲ聞

ス○邊ヲ
成ル○ト
ヲ守ル○
トヲ巡ル
○一ノ護
ル以上ハクニ
○酒旗
ノ邊○古
渡ノ一○
綴揚ノ一
○歌吹ノ

ノカヲ展シメ其ノ勞逸
ヲ時ニシ其ノ喜ヲ鼓シ
テ其ノ怒ヲ殺ギ而シテ
後ニ斬馬ノ劍ヲ磨シ懸
テ之ニ其ノ光鈍ノ爽々
タルヲ示シ以テ其ノ交
心ヲ未萌ニ折リ一モ命
ニ從ハザレバ則チ殺シ
テ之ヲ棄ルコ瓜ヲ割キ
芻ヲ剉スルガ如ク復顧
惜セサルヲ見セシメハ

キ乃チ故ヲニ其ノ期ヲ緩クス○嗚呼此ノ
君ニシテ此ノ臣アリ亦宜ナラズヤ○死ヲ
以テ君ヲ衛ル者古ヘヨリ少カラズト雖
其ノ如キハ亦稀ナリ

藤森恭助傳

藤森恭助名ハ大雅字ハ淳風和庵ト号シ晚
ニ天山ト更ム江戸ノ人ナリ大雅少シテ學
ヲ好ミ志操ヲ磨勵シ下位ニ在ト雖モ天下
ノ憂ヲ忘レズ嘉永六年墨艦ノ来リテ互市
ヲ乞フニ當リ幕吏疑懼シ其ノ凌厲スル所
ト爲ル大雅乃チ憤激シテ海防備論ニ卷ヲ

一○飛鳥
ノ一○畫
橋ノ一○畫
扇ノ一○清
泉○冷一
○寒一○
甘一○幽
一○香一
○碧一○
泉ヲ汲ム

天下至悍ノ馬ト雖モ豈
ニ我意ノ如クナラザラ
ンヤ天下至雄ノ將ト雖
モ豈ニ我命ニ從ハザル
ノ理アラシヤ夫レ天下
至悍ノ物ト雖モ未ダ死
ヲ畏レザル者アラズ至
蟬ノ物ト雖モ又未ダ欲
スル所ヲ得ルヲ樂シマ
サル者アラズ既ニ其ノ
樂シム所ヲ得テ又其ノ

著ハス既ニシテ水戸侯旨ヲ奉シテ時務ヲ
建白ス大雅芻言六卷ヲ上ツル議論切ニ時
病ニ中ル侯コレヲ嘉獎ス時ニ大藩諸侯或
ハ厚祿ヲ以テ大雅ヲ招ケモ固辭シテ就ズ
人其ノ故ヲ問フ曰ク吾レニ君ニ事ルヲ欲
セズト侯コレヲ聞イテ益々之ヲ賢トス戊
午ノ禍ニ大雅モ與ル井伊直弼大雅ノ名望
言論以テ人心ヲ鼓動スルニ足ルヲ惡ム尤
モ深シ酷吏其ノ風ヲ受テ鍛鍊羅織シテ禍
測レザルニ在リ大雅肅然トシテ曰ク吾ハ
范滂ト與ニ地下ニ游ブヲ得バ亦一ノ愉快

○泉ヲ掘
畏ル所ヲ畏レバ至悍至
勇ト雖氏豈ニ御シ難キ
ノ理アランヤ

熟語

○瀑一〇
懸一〇直
下ノ一〇空
○詞
仙〇詩一
○酒一〇
花一〇茶
驚馬ヲ以テ騏驎ヲ御ス
レバ則チ必ズ怒ル〇怒
レバ則チ制スベカラズ
驕モ亦制スベカラズ〇
嗚呼悍馬ヲ御スルハ其
レ猶ホ人ノ如キカ〇世
ニ悍馬ナカラシムル能

ナリト吏處スルニ重刑ヲ以セント欲ス而
シテ其ノ実ナシ乃チ時政ヲ誹謗スルヲ罪
シテ以テ之ヲ逐フ居ル幾クモナクシテ直
躬斃レ黨禁弛ミ大雅特ニ赦サレテ歸リ病
ニ家ニ臥ス丈久二年十月歿ス年六十四

熟語

死生ハ命アリ吾レ將ニ命ニ委シ以テ天ノ
定マルノ日ヲ待ントスルナリ〇年穀登ラ
ズ物價騰踊スルニ會ト雖氏坦然トシテ自
若ナリ〇性強記ニシテ書ニ於テ讀マザル
竹ナシ〇帝ニ曰フ一身ノ存没世ニ輕重ス

一以上ハ夫々
ル人ヲホ〇新
鮮〇小一
○肥一〇
手自ラ煎
ル〇火ヲ
活シテ一
ル〇爐ヲ
擁シテ一
ル以上ハ茶ヲニ
ルルヲ云フ

ハズ又悍馬ナカルベカ
ラズ〇猶ホ御シ難シト
云フモ吾ハ信セズ

妻妾説

コレ妻ト云フ者ハ何ゾ
六禮ヲ備テ之ヲ迎フレ
ハナリ之ヲ妾ト云フ者
ハ何ゾ六禮ヲ備ガレハ
ナリ是レ古人ノ議定ス
ル所ニシテ千歳ノ下ニ
至ル迄テ易ザル所ナリ

ルナケレバ取ルニ足ラズト〇侯伯ハ執ヲ
執リテ道ヲ問ヒ諸藩ノ執政ハ往々ニ就テ
事ヲ詞フ者アリ〇初メ某侯延テ賓師ト爲
シ學政ヲ委シ兼テ郡務ヲ治メシム〇是ニ
於テカ大ニ女教ヲ興シ宿弊ヲ改タム〇其
死ニ臨ミ家誠一卷ヲ著ハシ以テ其ノ子孫
ヲ誡シム

紀雜僧奇話

昔シ山衲アリ雜僧ヲ里ヨリ迎ス晨夕以テ
使役ニ供ス一日雜僧逃レ歸リ泣テ其ノ父
ニ訴ヘテ曰ク兒既ニ出家ス艱苦ハ固ヨリ

紅然ノト

欲ス○丹

シテ然ン

ト欲ス○

花然ルガ

如シ以上六花

○曼○

綿○

○瓊

○芳○

錦○

○繡

○珠

○佳

○張

○別

○離

然レモ其ノ家ヲ治メシ

ムルニ至リテハ其ノ人

ノ才ト不才トニ在テ妻

ト妾トノ別ニ在ラズ其

ノ人ノ母ト爲リ子ヲ教

ユルニ至リテモ亦然リ

然ラバ則チ何ゾ之ヲ區

別シテ其ノ限ヲ立ルヤ

曰ク妻トハ我ト其ノ位

ヲ齊フスルノ謂ニシテ

妾トハ僅ニ我ニ接スル

其ノ甘ンズル所ト雖モ師ノ我ヲ遇スル甚

タ無状ナリ殆ント堪ベカラザル者アリ其

ノ一ハ師毎ニ余ヲシテ其ノ頭ヲ剃シム偶

々一刀ヲ誤チテ血ヲ見レバ則チ鞭撻直ニ

下ル其ノ二ハ晨ニ起テ鼓ヲ播ゴトニ師研

法ノ精ナラザルヲ瞋リ呵責至ラザルナシ

其ノ三ハ余レ内逼テ起コトニ師冷眼シテ

送リテ曰ク汝又復爾ニ上ルカト父之ヲ聞

テ怒リ走り往テ山ヲ見テ曰ク賤兒久ク

師ノ恩ヲ辱ケナフス今已ヲ得ザルノ事ア

リ敢テ請フ兒ヲ受テ以テ帰ラント山納其

ヲ得ルノ謂ナリ故ニ妻

アリ而シテ妾アルヲ聞

久未カ妾アリ而シテ妻

アルヲ聞カ果シテ然

バ妻ハ猶ホ物ノ正ト如

クニシテ妾ハ猶ホ物ノ

副ノ如キカ今マ或ハ数

妾ス畜ハヘ酒ニ花ニ茲

ニ歌ニ快樂ヲ得ルノ遊

具ト爲ス者アリ是レ豈

ニ妻妾ノ何物タルヲ知

ノ辞色ヲ察シ徐ニ叩クニ故ヲ以テス乃チ

曰ク兒吾ニ告ルコト云々ト山納曰ク是レ辨

セザルベカラズ其ノ剃頭ハ則チ渠レ既ニ

其ノ頂ヲ円ニス難髪ノ勞ハ之ヲ人ニ委ス

ベカラズ故ニ我レ吾ガ頭ヲ借テ以テ刀ヲ

學ノ地ト爲ス今ハ則チ自ラ其ノ頭ヲ剃ニ

至ル獨リ余ガ頭ヲ剃ニ及ヒテ故意ニ刀ヲ

誤ル故ニ創痕縱横ナリ其ノ播鼓ハ則チ凡

ソ緇素ノ家ヲ問ズ必ズ研槌ヲ以テス渠ハ

獨リ木杓ヲ以テス故ニ隨ツテ研リ隨ツテ

折ル毎晨二三折ニ下ラズ其ノ上則チ

上巳事入神記卷之五百題上

聞ク○祖
逢ヲ張ル

○餞
聞ク

青甕ノ
如シ○繡

似々
リ○甕ヲ

鋪ヲ如シ
アリクサナドガ
マウセンヲヒキル

ルト云ンヤ、余レ是ニ感
ズルアリ、之ガ説ヲ作ル

熟語

妾ヲ以テ妻ト為ヲ禁ズ
ル者ハ名令ノ乱ルベカ
ラザルヲ以テナリ○妾

ヲ以テ妻ト為シ婢ヲ以
テ妾ト為ス者モ亦多シ

○娼ヲ以テ妻ト為スハ
妾ヲ以テ妻ト為スニ孰

カ○妻モ元處女ナリ妾

モ亦處女ナリ、婢若クハ
娼モ亦然リ。

賢愚諭

人ノ賢愚アルハ猶ホ刀
ニ利鈍アルガゴトキカ、

之ヲ鍊スルニ六經ノ炭
火ト子史ノ鐵鎚ヲ以テ

シ之ヲ砥礪スルニ文辭
ヲ以テスレバ、其ノ物ニ

觸ルヤ堅シトシテ破レ
ザルハナク、其ノ事ニ發

本寺新ニ一圓ヲ造リ、獨リ以テ縣吏ノ來リ
宿スルノ用ヲ雷ツ、渠レ其ノ近ク且ツ淨キ

ヲ利トシ、使ゴトニ輒チ往ク之ヲ禁ズレ、
止ズト、言未ダ畢ラザルニ、父拜謝シ、地ニ伏

シテ曰ク、小人師ノ厚誨ノ此ノ如キヲ知ラ
ズ、徒ニ兒ノ言ヲ聽テ以テ之ヲ疑ガフ、慚悔

ノ極、穴ノ入ルベキナキノミト、嗚呼是レ一
場ノ説話ト雖、凡然レ、凡上ハ頭官ヨリ下ハ

小吏ニ至ルマテ、苟クモ人ヲ治ムルノ責、
ル者ハ皆ナ意ヲ此ニ留メザルベカラズ、否

ガレバ、則チ偏聽人ヲ誤リ、忠邪地ヲ易ス、
雖

僧ノ父タラザル者、幾ド希レナリ、戒シメザ
ルベケンヤ、因テ之ガ記ヲ作ル。

熟語

師ノ叱咤ノ色、常ニ魂ヲ失ナフニ至ラシム
○朝ニ八園ヲ掃ヒ暮ニ八里ニ使シ、歸ル

少ク遲ケレバ、忽チ鞭答ヲ受ク○夜、尔ニ至
ルマテ肩ヲ按ゼシム、少ク睡レバ、叱責甚ダ

シ○兒ヤ未ダ薪水井臼ノ勞ニ堪ズ、而シテ
兒ヲ責ル、成人ノ如クス○片言以テ獄ヘ

ヲ折ルノ難キハ、是ニ於テ知ルベキナリ○
有司聽斷ノ其ノ當ヲ失ナフ者多クハ、是ニ

○逃

○懼

○一覺

○禪

○通

○禪ヲ解ス

○鳴蟬

○孤

○驚

○飛

○晚

○山

○秋蟬

○寒

○殘

○

スルヤ天下ノ人ヲシテ

驚歎セシムルニ至ル是

レ之ヲ賢ト為ス若シ夫

ノ生レテ六經子史ノ何

物タルヲ知ラズ其ノ身

ニ惰ムル者ハ惟安逸ノ

ミナラバ其ノ物ニ觸ル

ヤ猶韋ノ如キヲ之ヲ斬

ル能ハズ其ノ事ニ發ス

ル者如何ゾ能ク人ヲシ

テ見ルニ足ラシメンヤ

於テス驚メザルベケンヤ○人ヲ薦ムルノ

道大ヒニ是ニ似タル者アリ士大夫タル者

以テ座右ノ箴銘ト為スベシ

紀酒井忠利事

武州川越ニ備後村ト云フアリ其ノ里正某

世備後ト稱ス酒井備後守忠利ノ封ヲ川越

ニ移ルニ及ビ命ジテ其ノ名ヲ改タメシ

ム其聽カズ既ニシテ忠利封内ヲ巡行シ里

正ヲ召シ見テ之ヲ諭シテ曰ク君民稱ヲ同

フスルハ礼ノ宜キニ非ズト里正屈セズシ

テ曰ク小人ハ君ノ此ノ土ニ主トナリシヨ

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

是レ之ヲ愚者ト為ス豈

ニ利刀ノ能ク物ヲ斬リ

鈍刀ノ物ヲ破ル能ハザ

ルニ異ナランヤ而シテ

其ノ初ハ均シク是レ嬰

兒ナリ均シク是レ鐵ナ

リ唯コレヲ鍊ト鍊ザル

トニ在ルノミ然リ而シ

テ今ノ君子ハ曰ク賢愚

ハ天性ナリ利鈍ハ人エ

ナリト豈ニ謬ラズヤ

リ納貢課役取テ他邑ニ後レズ以テ其ノ職

ヲ尽ス主ノ知ル所ナリ今マ何ノ無扶アリ

累世襲グ所ノ名ヲ改メント欲スルヤ君言

フアリト雖ヒ小人敢テ命ヲ奉ゼズ必ズ名

分ヲ正サント欲セバ主宜シク主ノ名ヲ改

タムベシト忠利夷然トシテ曰ク然バ則チ

寡人ハ此ノ土ノ備後ニシテ汝ハ則チ一村

ノ備後ナリ各々其ノ自ラ稱スル所ニ從フ

ノミト東照公之ヲ聞キ嘆ジテ曰ク凡ソ甚

ガ緊要ナラザルノ事ヲ人ニ責テ而シテ必

ズ已ガ意ヲ逞マシフセント欲スル者ハ皆

熟語

ナルハナハ
クサンナ
ルヲテ

花
聖經ヲ以テ鋌ト為シ賢

相連ナル

傳ヲ以テ炭火ト為シ○

○緑相一

之ヲ淬ニ六經ヲ以テシ

ナル○香

之ヲ焯スルニ子史ヲ以

雷一ナル

テス○發シテ文ト為ル

○影相一

者輝光アリ見レテ功ト

ナル

為ル者輝灼ス○鈍ナル

者ハ磨バ則チ愚者ナリ

福心ナリ忠利ノ曠度機智ノ如キハ豈ニ常
人ノ能ク及ブ所ナランヤ

熟語

頑民ヲ治ムル少ラク其ノ頑ニ從ヘバ頑モ

亦從ツテ化スベシ○彼ヲシテ頑ナラザラ

シムレバ必ズ怠惰ニシテ事ヲ事トセザラ

ントス○彼レ朴直ヲ以テ未ル我コレニ應

ズルニ曠度ヲ以テスレバ彼モ亦心折スル

所アリ

頭書畢

上紀事論說五百題上卷終

